

大正八年三月二十五日調

千九百十九年巴里講和會議ノ經過ニ關スル調書 (其四)

(自三月一日至同三月十五日)

外務省政務局

目次

經過一覽

經過詳報

| | |
|-----------------------------|-----|
| 一、講和打合會並最高軍事會議 附波蘭委員會 | 七 |
| 二、國際盟聯委員會 | 四一 |
| 三、損害補償委員會 | 四五 |
| 四、開戰責任及制裁調查委員會(責任委員會) | 六一 |
| 五、港灣水路及鐵道ニ關スル國際研究委員會(交通委員會) | 七一 |
| 六、財政委員會 | 九九 |
| 七、經濟委員會 | 一〇三 |
| 八、國際勞働法委員會 | 一〇五 |

千九百十九年巴里講和會議經過一覽 (其四)

| 月 日 | 會 議 性 質 | 議 事 |
|---------|-------------------|---|
| 三 月 一 日 | 講和打合會(第三十次) | 甲、講和豫備條約中ニ挿入スヘキ軍事條項 乙、講和會議ニ於テ討議スヘキ財政問題 丙、損害補償問題 丁、經濟問題 |
| 三 月 一 日 | 財政委員會分科會 | 國際聯盟財政部ノ權能問題 (報告作成) |
| 三 月 一 日 | 波蘭委員會(第三次) | 波蘭ト獨逸、「チエツク」間國境問題 (小委員會組織) |
| 三 月 一 日 | 交通委員會第一分科會(第四次) | 自由通過修正協約案討議 |
| 三 月 一 日 | 交通委員會第二分科會(第三次) | 佛國ノ國際港協約案提出 |
| 三 月 一 日 | 損害補償委員會第一分科會(第六次) | 損害ノ種類ニ關スル各國覺書表審議 |
| 三 月 一 日 | 最高軍事會議 | 講和豫備條約軍事條項討議延期ノ件 |
| 三 月 一 日 | 交通委員會第一分科會(第五次) | 英米委員ノ別案提出 |
| 三 月 一 日 | 交通委員會第二分科會(第四次) | 國際港協定案審議 |
| 三 月 一 日 | 損害補償委員會(第十一次) | 五國會議へ質疑ノ件 |
| 三 月 一 日 | 交通委員會(第三次) | 國際河川修正協定案提出並米國委員ノ延期提議 |
| 三 月 一 日 | 交通委員會第一分科會(第六次) | 英米委員提出案討議 |

三月五日
 交通委員會第二分科會(第五次)
 損害補償委員會第一分科會(第七次)
 講和打合會(第三十三次)

三月六日
 責任委員會第一分科會
 交通委員會第二分科會(第六次)
 損害補償委員會第一分科會(第八次)
 最高軍事會議

波蘭委員會(第四回次)

國際港協定案審議

損害種類覺書摘要書ニ對スル佛白伊ノ修正案

甲、白耳義ノ豫備條約討議參加
 乙、「ジュネレスウヰツヒ」ニ關スル代表者意見聽取ノ件

丙、「ルクサンブルク」ノ要求聽取拒絕
 丁、財政及經濟委員會小國委員數決定

戊、埃地利食料補給問題
 己、「モンテネグロ」陳述聽取

甲、處罰スヘキ事實確認
 乙、常設委員會ノ設置提議ノ件

國際港協定案審議

甲、損害評價方法議長案討議
 乙、米國委員ノ損害額覺書提出

甲、獨逸ニ課スヘキ陸軍條項討議
 乙、獨逸ニ課スヘキ海軍條項討議

丙、軍事條項期限問題
 丁、「ヘリゴランド」問題

戊、「キトル」運河開放問題
 己、海底電線問題

庚、喪失船舶賠償問題

(第六次迄ノ議事)

波蘭獨逸間境界問題

イ、小委員會論議

ロ、境界案大要

立案委員會ノ報告審議

甲、第一分科會經何事項審議
 乙、第二分科會經何事項審議

甲、海底電線問題
 乙、埃國補給問題

丙、對獨陸海軍及空中條件原則(「ロイヤロ」
 ヲ提議)

前回ノ部ニ在リ

各種分科會設置問題

甲、損害評價方法議長案討議
 乙、各國計數提出期

甲、白耳義委員會報告可決
 乙、財政及經濟委員會小國委員選出問題

丙、獨逸船舶利用及獨逸補給問題

本會議ヘ提出スヘキ報告決定
 附、米國委員ノ修正意見

自由通過協定案討議

國際聯盟財政部創立問題並新財政委員會ニ關ス
 ル論議

前々回ノ部ニ在リ

甲、講和條約ニ挿入スヘキ鐵道條項案

三月七日
 責任委員會第二分科會
 損害補償委員會(第十二次)
 最高軍事會議

波蘭委員會(第五次)
 新經濟委員會(第一次)
 損害補償委員會第一分科會(第九次)

最高軍事會議

責任委員會第三分科會

交通委員會(第四次)

財政委員會(第九次)

波蘭委員會(第六次)

交通委員會(第五次)

三月八日

三月九日

| | | |
|-------|---|--|
| 三月十日 | 最高軍事會議 | 乙、國際鐵道ニ關スル佛國提案 甲、前埃帝處分問題 乙、豫備條約中ノ航空條件審査 丙、獨逸軍備制限問題 甲、講和條約ニ挿入スヘキ河川約款審議 乙、獨逸諸河川ヲ國際河川トスルノ提議 丙、「キール」運河問題 |
| 三月十一日 | 損害補償委員會第一分科會(第十次) 講和打合會(第三十四次) | 損害評價方法各國覺書討議 甲、講和假條約獨逸側代表者ニ關スル報告 乙、波蘭ヘ將軍派遣ノ件 丙、敵國側ノ「チエツク、スローヴァツク」國內ニ於ケル反亂煽動計畫ノ件 丁、「ユーゴウストラフ」要求聽取問題 (十一月ヨリ十五日迄ノ經過) 甲、英國案第十九條ニ對スル日本委員留保 乙、同 第十九條ニ對スル英國委員修正案 丙、第一回勞動大會ノ件 丁、勞動ニ關スル各國具體案綜合 戊、海上勞動ニ關スル佛國委員ノ提議 「キール」運河ニ關スル講和條約案作成 敵國連帶責任ノ原則討議 日本委員要價概算書提出 甲、第一及第二分科會ノ報告承認 乙、第三分科會ノ報告ニ關スル米國委員ノ新提議 |
| 三月十二日 | 損害補償委員會第一分科會(第十二次) | 損害評價方法各國覺書討議(承前) 講和條約ニ挿入スヘキ河川約款案討議 (「マンハイム」條約變更ノ件ニ付英國委員提議) 右ニ同シ (「ライン」河國際委員會代表權問題) 損害補償方法各國覺書討議(承前) 第三分科會ノ報告ニ關スル件(承前) 第三分科會ノ報告ニ關スル件(承前) 甲、航空委員任命ノ件 乙、陸海軍並空中條項及波蘭國境問題延期 甲、議長副議長推薦 乙、委員會內部ノ組織 丙、分科會ノ組織 丁、舊埃洪國軍事公債利札支拂不能ノ件 講和條約ニ挿入スヘキ河川約款案討議 イ、「マンハイム」條約ニ關スル件 ロ、「ライン」河國際委員會構成 |
| 三月十三日 | 交通委員會(第七次、午前) | 甲、午前ノ續 乙、講和條約ニ挿入スヘキ鐵道條項案審議 修正案再議 第三分科會ノ報告ニ關スル件(承前) |
| 三月十四日 | 損害補償委員會第一分科會(第十三次) 責任委員會 | 甲、聯合國海運會議ヘノ諮問 乙、損害補償本委員會ヘノ質疑事項 |
| 三月十五日 | 最高軍事會議 | |
| 不明 | 新財政委員會(第一次) 交通委員會(第九次、午前) 交通委員會(第十次、午後) 損害補償委員會第二分科會(第十四次) 責任委員會 損害補償委員會第二分科會 | |

| | | |
|-------|---|--|
| 三月十二日 | 損害補償委員會第一分科會(第十二次) | 損害評價方法各國覺書討議(承前) 講和條約ニ挿入スヘキ河川約款案討議 (「マンハイム」條約變更ノ件ニ付英國委員提議) 右ニ同シ (「ライン」河國際委員會代表權問題) 損害補償方法各國覺書討議(承前) 第三分科會ノ報告ニ關スル件(承前) 第三分科會ノ報告ニ關スル件(承前) 甲、航空委員任命ノ件 乙、陸海軍並空中條項及波蘭國境問題延期 甲、議長副議長推薦 乙、委員會內部ノ組織 丙、分科會ノ組織 丁、舊埃洪國軍事公債利札支拂不能ノ件 講和條約ニ挿入スヘキ河川約款案討議 イ、「マンハイム」條約ニ關スル件 ロ、「ライン」河國際委員會構成 |
| 三月十三日 | 交通委員會(第七次、午前) | 甲、午前ノ續 乙、講和條約ニ挿入スヘキ鐵道條項案審議 修正案再議 第三分科會ノ報告ニ關スル件(承前) |
| 三月十四日 | 損害補償委員會第一分科會(第十三次) 責任委員會 | 甲、聯合國海運會議ヘノ諮問 乙、損害補償本委員會ヘノ質疑事項 |
| 三月十五日 | 最高軍事會議 | |
| 不明 | 新財政委員會(第一次) 交通委員會(第九次、午前) 交通委員會(第十次、午後) 損害補償委員會第二分科會(第十四次) 責任委員會 損害補償委員會第二分科會 | |

會議以外ノ重要事項

| 月 日 | 事 項 |
|-------|---|
| 三月十四日 | <p>國際聯盟ニ關シ帝國委員ト濠洲首相「ヒュース」氏トノ會談(國際聯盟委員會ノ部ニアリ)</p> <p>甲、人種の差別撤廢問題</p> <p>乙、南洋諸島委任統治問題</p> <p>支那委員ノ要求覺書提出(講和打合會及最高軍事會議ノ記事ノ末尾ニアリ)</p> |
| 不 明 | |

講和打合會及最高軍事會議(附波蘭委員會)

○講和ニ關スル三月一日第三十二次打合會

一、日 時 三月一日自午後三時至同四時

二、議 長 「クレマンソウ」(遭難後初メテ)

一、議 題

甲、講和豫備條約中ニ挿入スヘキ軍事條項

右ニ關シ來ル三日之カ討議ヲ行フコトニ決ス

乙、講和會議ニ於テ討議スヘキ財政問題

右ニ付豫テ財政委員會ヲシテ審査セシメ置キタル處同委員會ハ其ノ報告(二月二十八日財政委員會第八次會合記事參照)ヲ齎シタルカ財政條項モ成ル可ク軍事條項ト同時ニ提出スルヲ可トスルノ趣旨ニ基キ右報告中ヨリ如何ナル事項ヲ不取政講和豫備條約中ニ挿入スヘキカヲ審議セシムカ爲ニ大國ヨリ各二名小國全體ヨリ五名ヲ出スヘキ委員會ヲ組織シ來ル十五日マテニ其ノ審議ノ結果ヲ報告セシムルコトニ決ス

丙、損害補償問題

○「クロット」、本問題ニ關シ大藏大臣「クロット」氏ハ損害補償委員會二月十九日ノ決議ヲ齎シ敵國カ支拂フヘキ賠償ハ各種損害ノ全部トスヘキカ或ハ其ノ一部トスヘキヤニ付五國會議ノ意見ヲ求メタルカ

○「ハウス」氏ハ大統領ノ歸佛迄本問題ノ決定延期ヲ主張シ

○「バルフォア」氏亦講和豫備條約中ニ挿入スヘキ損害補償條項ハ(不明)スルヲ(不明)國ノ支拂能力ニ應シテ其ノ金額ヲ定メ之ヲ要求スレハ可ナルヘク從テ今直チニ之ヲ決定セス暫ク待ツコト、スルモ差支ナカルヘシ兎ニ角本委員會ニ於テ

ハ全部並一部ノ補償兩様ノ一ニ於テ立案スルモ可ナラスヤト述ヘ

○結局延期ニ決定ス

丁、經濟問題

本問題ニ關シ經濟委員會決定ノ諸事項(二月十一日經濟委員會第三次會合參照)中如何ナルモノヲ講和豫備條約中ニ挿入スヘキヤヲ決定セムカ爲ニ又大國ヨリ各二名小國全體ヨリ五名ヲ出スヘキ委員會ヲシテ之ヲ審議セシメ來ル十五日迄ニ其ノ結果ヲ報告セシムルコトヲ決定シ散會ス

○三月二日最高軍事會議

一、日 時 三月三日午後三時

一、内 容 講和豫備條約軍事條項討議延期ノ件

イ、「バルフォア」 講和豫備條約軍事條項討議ノ答ナリシモ本問題ノ重大ナルニ顧ミ英國軍事委員トモ篤ト協議シ度ク且「ライン」地方左岸鐵道中ニハ戰略上ノ目的ニ出ルモノアリテ商業上ノ目的ニ副ハス又海軍事項ニ付テハ米國「ペンソン」氏モ異見ヲ有スト述ヘ兎モ角斯ル問題ノ討議ハ之レヲ「ロイド」氏ヨリシ「氏」歸佛後ニ讓ルヲ可トスヘシトテ該討議延期方ヲ申出タリ

ロ、「フオシユ」元帥 四月一日ヨリ復員ノ計畫アリ且ツ獨國ト交渉ノ都合モアリ故ニ本問題ノ討議ヲ延期スルトスルモ少クトモ三月二十日頃迄ニハ(脱)ノ運ヒニ至ラサレハ不便ナリト述ヘ

ハ、「バルフォア」 軍人側ニ於テハ四月一日ヲ以テ講和豫備條約締結ノ時期トノ(脱)居ルモノノ如キモ吾人ハ之レヲ知ラス且ツ「ウヰルソン」氏ノ歸佛ハ來ル十四日ナルヘク其ノ後三月二十日迄ニハ僅カニ四五日ヲ餘スノミ時日餘リニ切迫セリ

ニ、「ランシング」 米國軍ノ關スル限り四月一日ヲ以テ復員ノ時期ト定メタルコトナシト述ヘ

ホ、「ハウス」 諸委員會ハ三月八日迄ニ其ノ報告ヲナスヘキ筈ナル旨ヲ注意シ又

ヘ、「ミルナー」 卿 委員會中ニハ來ル十五日迄ニ報告スルコトナレルモノアル事ヲ指摘シ共ニ本問題ノ討議延期ノ爲メニ主張ス

ト、「バルフォア」 陸海軍並ニ空中ニ關スル諸軍事條項中ニハ獨國ニ對シ或ハ永久的製肘ヲ加ヘムトスルモノアリ或ハ一時的製肘ヲ加ヘムトスルモノアリ或ハ講和條約ノ實施ト共ニ其ノ效力ヲ失フモノアリ如斯各條項ノ有効期限ニ關スル主義原則一定セサレハ不可ナリ本問題ノ討議ヲ延期スルト同時ニ右主義原則ハ今日之レヲ議スルモ可ナラスヤト述ヘ

チ、「クレマンソウ」 右有効期限ノ問題ハ寧ロ各條項ト共ニ討議スルヲ可トセサト注意シ
リ、「フオツシユ」元帥 右期限ニ關スル主義ハ既ニ二月十二日ノ會議ニ於テ定レリ吾人ハ之レニ基キ各條項ヲ定メタルモノナリト主張セシカ

ス、「ネヅカ」(佛國軍令部長) 陸軍委員ニ於テハ右會議議事録ヲ有シ之レニ依リテ其ノ條項ヲ定メタルモ海軍委員ニ於テハ之レヲ有セス從テ之レナシニ其ノ條項ヲ定メタル次第ナリト指摘ス

ル、「ソソニ」男 要スルニ陸海軍空中三委員間ニ統一ヲ缺キタルモノノ如シ之レヲ統一スル事可ナラスヤト述ヘ
ヲ、「ミルナー」卿 之レヲ統一スト云フモ前期限ニ關スル主義ヲ援ケサレハ其ノ甲斐ナシト云ヒシカ

リ、「クレマンソウ」 右主義ノ問題ハ既ニ定マレリ即チ獨國ノ武裝ヲ解除シテ再ヒ世界ノ大亂ヲ醸ササル様ナスニ存ス吾人ハ今後三四十年ニシテ再ヒ獨國ニ軍備擴張ノ自由ヲ與フカラス此主義タルヤ「ウヰルソン」氏モ會同ノ上既ニ決定セラレタル處ナリト述ヘ

種々應答ノ末

カ、決局 來ル六日更ニ本會議ヲ開キ前記陸海軍空中三委員ハ「フオシユ」元帥主宰ノ下ニ再ヒ會合シ統一の協議ノ結果ヲ同日ノ本會議ニ報告スルコトナレリ右應答書明日及明後日ヲ(以下脱)

○講和ニ關スル三月五日第三十三次打合會

一、日 時 三月五日午後三時

一、議題

甲、白耳義ノ豫備條約討議參加

白耳義ヨリ豫備條約ノ討議參加ヲ申出テ來レリトテ「クレマンソウ」ヨリ會議ニ諮ル、會議議事規則ニハ討議ニ利益關係アル國ノ出席ヲ許ス事トナリ居ルヲ以テ白國ノ要求ヲ容レタリ

乙、「シユレスウイツヒ」ニ關スル代表者意見聽取ノ件

「シユレスウイツヒ」ニ關スル丁抹ノ要求ニ付二月二十一日ノ五國會議ニ於テ在佛丁抹公使ノ陳述アリタル處更ニ丁抹議會ノ選出派遣セル同國代表者ノ陳述ヲ聽取セラレムコトヲ丁抹公使ヨリ申來レルモ右ハ白耳義問題ノ委員會ヲシテ聽取ラシムルコトニ決ス

丙、「ルクサンブルグ」ノ要求聽取拒絶

「ルクサンブルグ」ヨリモ討議聽取方申出アリタルモ同國ハ現ニ政府モ無ク又占領中ニモアルコトトテ之カ拒絶ニ決ス
丁、財政及經濟委員會小國委員數決定

財政及經濟委員會ニ出タスヘキ特別利害關係ヲ有スル小國ノ委員ノ數ニ付三月三日「カンボン」座長ノ下ニ右小國會議ヲ開キタル處委員數ヲ十名ニ増加シ度キ旨同會議ニテ決シタル次第「カンボン」氏ヨリ報告アリタルモ右小國中ニハ南米諸國、「ポリビア」「エクアドル」等戰爭ニ左程關係ヲ有セサル國ヲ選出スルハ理由ナシトテ既定ノ通五名ヲ選出セシ

ムルコトトス

戊、埃地利食料補給問題

イ、最高經濟會議ノ報告承認

埃地利食料品缺乏ノ状態ヲ此儘ニ放擲セハ益々獨逸ニ接近セシムヘキニ付最高經濟會議ヲシテ其ノ補給策ヲ研究セシムルコト、ナリタル處同議長「クレマンソウ」五日五國會議ニ出席最高經濟會議ニ於テハ英佛伊三國ハ同會議監視ノ下ニ埃地利ニ補給セラルヘキ食料品ノ支拂ニ當ツル爲次ノ收穫期迄三千萬弗以内ニ於テ各平等額ノ貸付ヲナス事及其ノ引當トシテ埃地利ヲシテ(不明)雜也納市(脱)其ノ他適當ト認ムヘキ國有財産ヲ三國代表者ヨリ成ル委員會ニ提出セシムルコトニ決シタル等決議ノ詳細ニ互ル報告アリテ承認セラル

ロ、埃國食料補給救援會長ノ覺書審議

右ニ關聯シ埃地利食料補給ノ實行方法ニ付討議開カレ五國會議ニ提供セラレタル舊埃國食料補給救援會長「フウバア」氏ノ覺書ヲ議ス

右覺書ハ三月一日ヨリ次ノ收穫期迄ニ埃地利ニ輸入ヲ要スヘキ額ハ麵麩原料一ヶ月十八萬五千噸「ヘット」一萬五千噸ニテ右代金月五千萬弗ノ見當ナルカ埃地利食料補給ノ問題ハ當ニ輸入スルニ止ラス國內分配ノ統一ヲ計ルヲ要スヘク現ニ「チエツクスラブ」地方及「アドリアチック」附近「ユーゴウストラブ」地方ハ糧食ニ缺乏シ居ルニ反シ「ユーゴウストラビヤ」ノ内部及「バナト」地方ハ比較的豊富ニシテ數ヶ月間「ユーゴウストラビヤ」ノ内部匈牙利及北塞爾比ヲ維持スルニ足ルヘキ旨ヲ述ヘ此際最モ事宜ニ應セル解決方法ハ舊埃地利諸邦(伊軍占領中)「アドリアチック」地方ヲ含ムヨリ鐵道車輛ヲ提供セシメ之ヲ救援會長ノ無視ノ下ニ置カシムルニアリトテ鐵道管理ノ必要ヲ説キ居レリ

ハ、伊國委員ノ即決不同意

○伊國委員ヨリ埃國ノ物資狀態ハ一方誇張サレ居ルト共ニ伊國トシテハ其補給ニ出來得ル限り盡力シ居ル次第ナルニ

近頃「ライパツハ」ニテ「ユーゴウストラブ」民ハ伊國避難民ヲ乗セタル列車ニ暴行ヲ加ヘ伊國將校カ其ノ不法ヲ詰リタルニ却テ將校ノ立退ヲ要求スルナド伊國ニ侮辱ヲ加フルニ付已ムヲ得ス伊國ヨリ汽車ヲ差止メタル始末ヲ語り斯ル情勢ニ付本日本問題ヲ決定スルコト難シトテ屢々陳述スル所アリ

○英國委員ハ右ハ差當リ人道問題ナル上高等政策ニモ重大ナル關係ヲ有スルニ付一日モ早ク決定シタシト促カシ

○「クレマンソウ」「ビシヨン」「ハウス」モ塊地利カ獨逸ニ併合セムコトヲ決議シ居ルコトニ鑑ミ本問題ハ伊國ノ「アムール」「プロブル」ニ關係アルヘキモ重大問題ナレハ速ニ解決セムコトヲ力メタルモ

○伊國委員ハ本件ハ目下歸國中ノ「オルランド」ニモ相談スルヲ要スル故首相ニ於テモ出先官憲ノ意見ヲ徵スル必要アルヘキ故即決スルハ同意シ得サルモ次ノ金曜日ニテモ相談スルコトトシタシト申出テ決定ス

癸、「モンテネグロ」ノ陳述聴取

○前華盛頓駐在「モンテネグロ」公使「グヲウデノウイチム」ハ國王「ニコラス」ノ代表者トシテ出席同國王ノ單獨講和ヲ否認若ハ昨年十一月以來同國內ニ行ハル、併合運動ハ塞爾比ノ「プロバガンダ」ニ依ルモノニシテ國民ノ希望ニ非ストシ目下占領中ノ塞爾比軍ヲ同國ヨリ撤退セシメ平和回復迄聯合軍ヲ以テ占領セムコトヲ要求ス

○右陳述ハ五國會議ニ於テ狂ケテ聴取シタルコトトテ特ニ翻譯ヲモ爲サス陳述終ルヤ直ニ閉會ス尤モ伊國委員ハ此取扱振ニハ多少不平ナリシ様見受ケラレタリ但シ一般會議ニハ別ニ印象ヲ與ヘサリシモノ、如シ

○三月六日最高軍事會議

一、日 時 三月六日自午後三時至同五時

一、内 容

甲、獨逸ニ課スヘキ陸軍條項討議

イ、「ロイド、ジョージ」獨逸兵制限ニ關スル質問

「フォツシユ」元帥主宰ノ下ニ成レル軍事條項ノ討議ニ先テ「ロイド、ジョージ」氏ハ陸軍條項中ニ獨逸ニ二十萬ノ兵數ヲ許ス事トナリ居レルカ其ノ徵集ノ方法如何ト問ヒタルニ

ロ、「フォツシユ」ノ答辯

「フォツシユ」元帥ハ志願若クハ抽籤ニ依ルヘク別ニ一定セス兎ニ角一年二十萬ノ兵ヲ許スノミナリト答ヘタル

カ

ハ、「ロイド、ジョージ」

「ロ」氏ハ一年二十萬ツツノ兵數ヲ有セハ十年ニシテ二百萬十五年ニシテ三百萬ノ服役ヲ終ヘタル兵員ヲ有スルノ計算ナリ是レ果シテ獨國軍備制限ノ趣旨ニ叶フモノナリヤト反問シ

ニ、「フォツシユ」

「フ」元帥ハ軍ノ強弱ハ兵數ノ多寡ニ依ラスシテ寧ロ將校ノ善惡ニ依ル本案ニ依ルニ多數ノ將校ヲ養成シ得サル事トナリ居ルヲ以テ兵數ノ計算ハ然ル事ナカラ強力ナル軍隊ヲナサス「ビュジョー」(Bugaud)將軍ノ所謂獅子ノ下ニアル群羊ハ驚馬ノ指揮ニ從フ獅軍ヨリモ強シトノ意ナリト説明セシニ

ホ、「ロイド、ジョージ」

「ロ」氏ハ獨國ハ現時戰役ニ從事シタル多數ノ將校並ニ下士卒ヲ有ス此外年々二十萬宛ノ兵員ヲ徵集ストセハ軍隊ノ編成容易ナルモノアルヘシ英米モ僅少ノ將校ニ依リ大軍ヲ編成セシニ非ラサヤ英國ノ屬領地(テリトリアル)ノ如キハ僅ニ二三箇月ニシテ強力ナル軍隊ヲ出セリト更ニ反問シ

ヘ、「フォツシユ」

「フ」元帥亦之ニ應答シテ成程今日ノ處獨國ハ現戰役ヲ經タル下士將校數(脱)ヲ有セム然レトモ此等ハ常ニ訓練ヲ

繼續セサレハ遠カラスシテ復役ニ適セサルニ至ルモノナリ英米ト雖モ將校ヲ有シタルカ故ニ軍隊ヲ編成シ得タルモノナリ本案ノ計畫ニ從フトキハ將校備ハラス有效ナル軍隊ヲ爲ササル計算ナリト辯明セシカ

ト、「ロイド、ジョージ」

「ロ」氏ハ之ニ對シ專門ノ事項ニ關シ元帥ノ意見ヲ彼此批評スルニハ非サルモ本案ニ依レハ幾何ナラスシテ獨逸ハ百萬ノ兵ヲ擁シ相當ノ將校ヲ有スルニ至ルヘシ何レニシテモ獨逸ハ英國ヨリモ多數ノ兵員ヲ有ス可ラス獨逸ノ兵數制限ハ本案ヨリモ一層嚴格ナルモノタラサル可ラス而シテ本問題ハ實ニ軍事上ノミナラス政治上ニモ至大ノ關係ヲ有スルモノナレハ今日之ヲ決定セス更ニ研究ノ上ノコトニ爲サムコトヲ申出テ

チ、結局陸軍條項ノ決定ハ之ヲ後日ニ讓ルコトト成レリ

乙、獨逸ニ課スヘキ海軍條項討議

イ、獨艦處分方法討議延期

○佛國海相「レーグ」氏ハ獨逸ヨリ聯合國側ニ引渡スヘキ軍艦ヲ其引ノ渡シ後破壞スルノ案ハ聯合國相互間意見ノ一致ヲ見サル所ナルカ何レニシテモ此點ハ之ヲ獨逸ニ對シテ定ムルノ要ナク獨艦引渡シ後聯合國ノ間ニ於テ之ヲ協議決定スルモ遲カラスト述ヘ

○「ロイド、ジョージ」氏亦之ニ同意シタリ

ロ、海軍兵員制限問題延期

「ロ」氏ハ更ニ海軍兵員ノ制限問題ニ就テモ陸軍同様之カ決定ヲ留保セムコトヲ希望シ其ノ議採用セララル

丙、軍事條項期限問題

軍事條項ノ期限問題ニ關シ「バルフォア」氏ハ去ル三日ノ軍事會議ニ於テ述ヘタル意見ヲ把持シ兼ネテ此點ニ關スル決定モ亦之ヲ他日ニ留保セムコトヲ主張シ其ノ通採用セララル

丁、「ヘリゴランド」問題

「ヘリゴランド」砲臺ヲ破壞シ又同島ヲ獨逸ニ返還セサルノ點ニ於テハ衆議一致セシモ之ヲ如何ニ處分スヘキヤノ問題ノ決定ハ之ヲ後日ニ留保スルコトト成レリ

戊、「キール」運河開放問題

○本問題ニ關シ之レヲ各國軍艦商船自由通航ノ爲メニ開放スヘキヤ否ヤニ付豫テ米國軍事委員ニ於テ異論アリ

○「バルフォア」ノ開放主張

「バ」氏ハ同運河ノ策戦上甚タ有效ニシテ獨逸ニ於テ之レヲ有セムカ「バルチック」海ハ獨逸ノ湖水ト化シ一旦緩急ノ際他國艦船ノ蒙ル不便不利大ナルモノアルヘキ旨ヲ述ヘ同運河開放ノ當然ナル事ヲ主張シタリ

○米「ランシング」反對

「ラ」氏ハ策戦上ノ利害問題トシテハ如何ニモ尤モノ見解ナリ唯之レカ爲メニハ運河附近ノ砲臺ヲ破壞スルノ方法ニ出ツルモノナラム然レトモ全然一國內ニ存在スル運河ニ對シ各國艦船ノ自由通航ヲ要求シ得ルノ理由ナシ之レ恰モ米國「ケーブゴッド」運河ニ對シ世界各國ノ利便ヲ要求シ得サルト同様ナリト述ヘ

○「ロイド、ジョージ」氏ハ「スエズ」「パナマ」兩運河同様「キール」運河自由通航ノ正當ナル旨ヲ唱ヘシモ應答ノ未結局國際河川委員會ノ調査ニ附スル事ニ決セララル

癸、海底電線問題

○本問題ニ關シ「ランシング」氏ハ其ノ沒收ノ理由ニ付戰爭行爲ニ使用セラレタルカ爲メナリヤ或ハ償金ノ代リトシテ之レヲ行フモノナリヤ如何ト云ヒシニ

○英國軍令部長「ウエムス」氏ハ之レヲ以テ戰爭ノ用ニ供セラレタルモノニシテ從テ聯合國ニ於テ之ヲ切斷シ置キ代ヘ又ハ新設セシモノナリ軍事上ノ齒獲品トシテ之レヲ要求スルハ當然ナリト述ヘシカ、

○「ペンソン」氏ハ今問題トナレル海底電線ハ悉クハ軍事上ニ使用セラレヌ又全部聯合軍ニ於テ占有シ居ルニモ非ラサルコトヲ注意シ

○佛國軍令部長ハ英國軍令部長同様陸戦上ニ於ケル電信電話線ノ如ク之ヲ鹵獲スルモ不都合ナカルヘキ旨ヲ唱ヘシカ

○「ランシング」氏ハ公海ノ海底ニ存スル電線ヲ戦利品トシテ鹵獲スルノ權國際法上存スルヤト反問シタル處

○（脱）氏ハ何レニセヨ獨逸ノ公有財産ナルヲ以テ之ヲ返還セサルハ當然ナラスヤト述ヘタリ

○我牧野男モ亦タ此等電線ノ或モノハ獨逸力戦争用ニ供シタルモノナルヲ以テ鹵獲ノ上ハ之ヲ返還セサルノ意味ニ於テ帝國海軍委員モ諸條項ニ同意セリ而シテ向後其ノ處分ニ付キテハ更ニ意見ヲ述フルコト有ルヘキモ兎ニ角之ヲ返還セサルコトニ同意セル次第ナリト述ヘタルニ對シ

○「バルフォア」氏ハ成程之ヲ查スルニ問題ハ自ラ二トナル海底電線ノ全部ヲ沒收スルカ其ノ一部ヲ沒收スルカ而シテ其ノ沒收ハ國際法ニ適合スルヤ否ヤノ問題ト之ヲ沒收シタル後ノ處分問題トハ自ラ異ナル前者ハ純然タル法律論ニシテ後者ハ政略問題ナリト述ヘシニ

○「ランシング」氏ハ之ヲ戦利品トシテ沒收スルカ償金ノ代價トシテ沒收スルカラ論スルノ要有リト唱ヘ

○其他意見交換ノ末兎ニ角法律上ノ問題ニ付テハ五國ヨリ各一名ヲ出席セシムヘキ委員ヲシテ更ニ本件ヲ審議考究セシムルコトニ決定セリ

庚、喪失船舶賠償問題

尙ホ最後ニ喪失船舶ノ賠償問題ニ關シ本問題ハ海軍條項中ニ挿入セス損害補償問題ノ部ニ編入スヘキモノナリトノ議出テ其ノ通り決定セラル

○三月七日最高軍事會議

一、日 時 三月七日自午後三時至同五時半

一、内 容

甲、海底電線問題

イ、「ランシング」ノ提議

前日ノ決議ニ從ヒ「ランシング」氏ハ海底電線問題ヲ左ノ三項ニ分チ會議ニ諮ル

一、海軍行動ニ依リ切斷又ハ占有スル敵ノ海底電線ヲ捕獲品トスル事ハ國際法又ハ其ノ主義ニ照シ正當ナリヤ

二、右海底電線ヲ保持スル事ハ同シク正當ナリヤ

三、右切斷又ハ占有シタル海底電線カ他國ノ領土ニ陸揚セラレタル場合同國ハ敵國（聯合國ノ）トノ間ニ存スル契約又ハ許可ニ依リ同契約ヲ取消シ又ハ海底線ヲ管理スルニ如何ナル權利ヲ有スルヤ

ロ、委員任命及論議

本問題ハ直ニ採用セラレ夫々委員ヲ任命シ日本側ヨリハ山川參事官ヲ出タシタル處今日問題トナリタル電線中ニハ現ニ聯合側ニテ切斷セサルモノアリ、又現ニ占有セサルモノモアリトノ注意モアリタルカ右問題ハ各電線ニ就キテ夫々審査スルニ非ラス、原則ヲ定ムルモノナリト「ランシング」氏ヨリ答ヘ、牧野委員ハ右委員會ニテ捕獲又ハ保持スルノ權利ナシト決定シタル場合ニハ如何ニスヘキヤト問ヒタルニ「クレマンソウ」氏ハ其問題ハ五國會議ニテ決定スヘキモノナリト答ヘ、「バルフォア」氏ハ委員會ノ決定如何ニ拘ラス最終決定ハ五國會議ニ於テナスヘキモノナリト念ヲ押シ其ノ了解ニテ本件ヲ終了ス

乙、奥國補給問題

イ、米國委員ノ伊國盡力方希望

米國「フウバー」氏ハ埃國へ毎日食料千噸ヲ送ル必要アル處現今僅ニ八百噸ヲ送り得ルニ過キサルヲ以テ至急伊國ニ於テ汽車ニテ發送方同意アリ度キ旨ヲ述フ

ロ、論議

○伊國食料大臣「クレスピ」氏ハ伊國カ補給ノ爲ニ盡力シ現ニ毎日三百噸積ノ列車ヲ發送シ居リ他ノ途ヨリモ補給行ハレ居ルニ付「フウバー」氏ノ指摘スル分量ハ埃國ニ送り出サレ居ル次第ナリト言ヒ前日ノ陳述ヲ尙詳細ニ繰返シ斯ク盡力シ居ルニ拘ラス「ユーゴウストラブ」カ伊國列車ニ暴行ヲ加ヘ伊國々旗ヲ引裂キ之ヲ燒キ伊國將校ノ抗議ヲ無視シ之ニ立退ヲ命シタル次第ヲ述ヘ伊國トシテハ適當ナル始末ヲ着ケサレハ「フウバー」氏ノ説ヲ容レ難シトテ一ノ決議案ヲ示シ英佛米伊ノ將軍ヨリ成ル委員ヲ當該地ニ派遣シ事實ヲ調査シ伊國ニ相當ノ保證ヲ爲スヘキヲ提議シ

○「ロイド」ジョージ「ヨリ伊國ノ旗ニ對スル侮辱ハ當然之ヲ價ハサルヘカラサルカ一方補給ノ問題ハ急ヲ要スルニ付其ノ調査ノ結果ヲ俟ツコトナク右委員任命ノ次第ヲ「ユーゴウストラブ」ノ當該地方官憲ニ通知次第補給ヲ實行スルコトニシタシト云ヒ

○一方「フーバー」氏ノ言ニ對シ伊國委員ニ於テ故障アリ又「フォツシュ」元帥ノ異見アリ議論中々盛ナリシカハ、決定

遂ニ補給問題直接關係者間ニ意見ヲ纏ムルコトトナリ當局者ハ直チニ別室ニ移リ決定ノ後之ヲ報告可決セラル

丙、對獨陸海軍及空中條件原則

(右述補給問題當局者ノ別室ニ引移リタル際議長ハ五國代表者及五國陸海軍空中將官各一名並會議附書記ヲ除クノ外他ノ諸員ニ悉ク退場ヲ求メタリ)

イ、「ロイド、ジョージ」氏ノ提議

「ロ」氏ハ獨逸トノ陸海軍及空中條件ハ左ノ原則ニ基クヘキコトヲ提議ス

一、獨逸ノ陸海軍及兵力ハ單ニ志願兵ヨリ採用スルコト

二、各軍服役期限ハ勅クトモ十二箇年トス

三、獨逸陸軍及空中兵力ハ總テ二十萬人ヲ越ユヘカラス歩兵力ハ十五師團及騎兵三師團以上タル可ラス

四、獨逸海軍兵力ハ總テ一萬五千人ヲ超ユ可ラス

尙「ロイド、ジョージ」氏ハ之ニ説明ヲ加ヘ獨逸カ兵力ヲ制限スルハ短期服役ノ兵トスルカ長期服役ノ志願兵トスルカニアルモ前回モ述ヘタル通り毎年新兵ヲ服役セシムルトキハ十年二十年ニハ數百萬ノ兵ヲ得ルコトトナルニ付年限ヲ長クシ毎年新兵ヲ訓練スルノ途ヲ塞キ且志願兵トスルトキハ費用モ多ク却テ制限ノ目的ヲ達スハシ自分ハ此目的ヲ達セス數年ノ後ニハ百萬ノ兵ヲ養成スルカ如キ條約案ニハ斷然調印セス之レハ政府ノ決定スヘキ問題ニシテ將軍ノ決定スヘキモノニ非スト云ヒ

ロ、「クレマンソウ」氏モ之ニ同意シ佛國將軍連ニ多少異見ヲ述フルモノアリシモ右ノ主旨ニテ更ニ制限案ヲ審査スヘキコトヲ「フォツシュ」元帥及各國軍事委員ニ依託シ散會ス

○三月八日最高軍事會議

一、日 時 三月八日自午後三時至同零時半

一、内 容

甲、白耳義問題調查委員會報告可決

白耳義問題調查委員長「タルヂュ」氏ヨリ調査ノ結果ヲ報告シ可決セラル該報告次ノ如シ

「一八三九年條約改訂問題ノ攻究ニ從事スル白耳義事項調査委員會ハ二月二十六日ノ會議ニ於テ左ノ通決議セリ

(一) 三條約(即五擔保國ト白國間、五擔保國ト蘭國間、白ト蘭國間ノ三條約)ハ當然一括シテ一體ヲ爲ス

蘭白條約ハ他ノ二條約ト別箇ノモノニ非ス三條約ハ其ノ違反ノ事實ニ因リ消滅シタルモノナリトスル議論ヲ審査スルニ及ハスシテ三締盟國ニ於テ右改訂ノ必要ヲ認ムルモノナルコトヲ信ス

(二) 事實上三條約ハ大強國カ白耳義ニ約セル何等ノ保障ヲ與フルコトナクシテ却ツテ領土及河川條款ノ結果同國々防能力ヲ著シク減殺セシムルモノナリ五大國カ白耳義ニ約シタル保障ハ獨塊露ノ關スル限りハ目下ノ處實行不可能ナリ此ノ點ヨリスルモ又改訂ノ要アリ

(三) 講和會議ハ永久中立ヲ將來應スルコトヲ豫見ス之ヲ以テ條約改訂ハ一般の利益關係ヲ有ス永久中立ハ又和蘭對五大國條約ニ依リ英佛カ和蘭ニ保障スル處アルヲ以テ條約改訂ニハ蘭國ヲ參加セシムルノ要アリ從テ左ノ通提議ス

(A) 千八百三十九年ノ條約ハ之カ改訂ヲ必要ト認ムルニ付列國協同ノ請求ニ基キ各條款全體ニ付改訂スルコト

(B) 和蘭ハ右ノ改訂ニ參加スルコト

(C) 保障諸大國中條約ノ義務ヲ確守シタル國ハ均シク右改訂ニ參與スルコト

(D) 講和會議ニ參列シ一般利益ニ關係アル大國モ亦之ニ參與スルコト

(E) 本改訂ノ一般的目的ニ遵由シ千八百三十九年條約ノ定ムル對白耳義主權制限ヲ廢シ且同國並一般平和ノ爲メ右條約ノ結果タル諸種ノ危險及不便ヲ除却スルニ在リ

實行方法ニ關シテ委員會ハ聯合最高會議ニ左ノ通提議ス

「最高會議ハ千八百三十九年條約改訂ノ必要ナル事ヲ蘭國ニ通告方並本問題ニ關シ蘭國政府ノ見解ヲ最高會議ニ開示スル爲メ代表者ノ派遣期成方ヲ條約ニ忠實ナリシ他ノ保障強國ニ依頼ス

最高會議ハ直チニ條約改訂事務ニ着手ス右ノ改訂ハ白耳義及和蘭ノ利益ヲ目的トシ白耳義實行委員會並國際交通道路及運輸委員會ニ於テ各々其ノ事務分擔ニ依リ之ヲ攻究スヘシ
最終條約ノ條款ハ國際聯盟ノ企圖スル保障ヲ以テ其ノ目的ト爲スヘシ」

乙、財政及經濟委員會小國委員選出問題

イ、「カンボン」ノ報告

財政及經濟委員會ニ出席スヘキ小國委員ノ選出ニ關シ更ニ小國會議ヲ開キタルカ前回通り南米諸國ヲ主トシテ五人ノ委員ヲ選出シタル爲歐洲小國ハ之ニ抗議シタル次第ヲ小國委員會長「カンボン」氏ヨリ報告ス

ロ、討議

右ハ實際戰爭ニ依リ最モ損害ヲ受ケタル白耳義塞耳比等諸國ヲ排除シ却ツテ單ニ獨逸ト國交ヲ斷絶シタルノミナル南米諸國ヲ入ル、モノニシテ不都合ナリトノ議ニ一致シタルカ(尤モ米國ハ多少巴奈馬玖馬等ヲ庇フ氣味アリ)如何ニ決定スヘキヤハ十日ノ會議ニ移シ右兩委員會ハ其ノ決定如何ニ拘ラス調査ヲ進行セシムルコトトス

丙、獨逸船舶利用及獨逸補給問題

イ、最高經濟會議ノ報告

本問題ハ一月ノ休戰條約ニ於テ一旦獨逸ノ承諾シタル處ナルモ未タ實行セラレサルヲ以テ「スバー」ニ於テ獨逸ト交渉ヲ重ネタルモ獨逸ハ右船舶ヲ全然獨逸ノ補給ニノミ利用スルニ非サレハ之ヲ承諾セサルヲ以テ特ニ「スバー」ヨリ最高軍事會議ニ報告シ同會議ハ更ニ最高經濟會議ヲシテ審議セシメ其ノ結果ヲ本日ノ會議ニ提出シタル次第ニシテ其ノ案ノ大要ハ

一、獨逸ハ直チニ其ノ船舶ヲ聯合側ニ提供スルコト而シテ聯合側ハ直ニ之ヲ以テ附近中立國ニ集積シアル食料品ヲ獨逸ニ送ルコト現ニ「ロツタルダム」ニ約十萬噸アル見込

二、九月一日迄ニ麵粉約三十萬噸脂肪七萬噸ヲ獨逸ニ輸入スルコト

三、右食料ノ代價ハ船舶ノ傭入料獨逸ヨリ中立國ヘノ輸出品ノ代價中立國ニ於ケル債券在外國有價證券及財産ノ賣却ヲ以テ之ニ充テ之等ヲ引當トシタル貸出ノ方法並獨逸ノ(不明)タリシ金ノ拂出ニ就キテハ聯合側ニ於テ協議ヲ遂クルコト

ロ、討議

○右ノ中獨逸ニ供給ノ分量ニ就キテハ更ニ協議ノ餘地ヲ存シ尙支拂ノ方法ニ關シテモ英米ト佛トノ間ニ意見ノ相違アリタルカ

○「ロイド、ジョージ」ノ急速補給主張

「ロ」氏ハ休戰條約ノ行懸上聯合側カ獨逸ニ食料ヲ供給スルノ義理アルノミナラス之ヲ其ノ儘ニ放棄スルトキハ獨逸ハ益々「ボルシエウヰヰ」蔓延シ遂ニハ他ノ歐洲諸國ニモ及ヒ由々敷大事トナルヘキニ付大政策上是非之ヲ實行セサルヘカラス現ニ「ウヰルン」大統領カ本會議ニ出席ノ際ニモ其ノ急要ナルコトヲ切言シ佛國側ニテモ之ニ同意シ大藏大臣「クロツツ」氏モ財政上ニ關スル諸多ノ要求ヲ撤回シタル次第ニシテ當時ヨリ既ニ二箇月ニ垂ントスルニ拘ラス未タ一粒ノ食料ヲモ獨逸ニ送ラサルハ甚タ怠慢ナリ之畢竟「クロツツ」氏カ頗ニ金トカ有價證券トカ何時モ同様ノ要求ヲ提出セルカ爲ナリ「クロツツ」氏ハ「ボルシエウヰヰ」ノ蔓延ニハ「レーニン」「トロツキー」ヨリモ多大ノ功勞アリト放言シ又在「ケルン」英國將軍「ブリューマー」其ノ他ヨリノ來電ヲ朗讀シ獨逸ニテハ日々婦女子供ノ餓死スル者多ク獨逸人ハ彈丸ニ當リテ即死スル方餓死ニ勝ルト言ヒ英軍ハ之ヲ目前ニ見ルニ忍ヒスト言ヒ來レル趣ヲ述ヘタリ

○「クロツツ」反對

「ク」氏ハ之ニ對シ自分ハ出來得ル限リ聯合國ト歩調ヲ共ニシ既ニ佛國側ニテ右補給ノ目的ノ爲ニ四億五千萬法ノ支出ニ同意シタル位ニテ徒ニ故障ヲ入ル、モノニ非ラス又自分ノ主張ヲ撤回シタルコトナシ獨逸ノ金及有價證券ハ佛國カ其ノ蒙リタル巨額ノ損害ニ對シ唯一ノ引當ヲナレハ之ヲ以テ獨逸人ヲ養フカ如キ費用ニ使用スルコトハ自分ノ職責上斷シテ同意シ難シト云ヒ

○「クレマンソウ」反對

「ク」氏モ獨逸カ果シテ瀕死ノ状態ニ在ルヤ否ヤハ一概ニ斷定シ難シ成ル程一地方ニハ食物缺乏シ「ブリューマー」將軍ノ云ヘルカ如キ事情アルヤモ計リ難キモ之レ畢竟食料ノ分配其ノ宜シキヲ得サルニ依ルモノニシテ在倫敦船舶委員ノ一員タル佛國海軍將校ノ來翰ニ依レハ獨逸ハ船舶問題ニツキ不條理ナル主張ヲナスモノナルニ付キ三日ヲ限リ満足ナル回答ヲ爲サ、レハ更ニ從前ノ通り封鎖ヲ嚴重ニスヘシト申シ來レリ是ハ元ヨリ適當ノ嫌ヒヲ免レサルモ獨逸ハ依然例ニ依リ懸ケ引キヲ爲シツ、アルモノト推測ス若シ果シテ「ブリューマー」將軍ノ云ヘル如キ實情ナランニハ彼是ノ文句無ク船ヲ提供シテ食料ヲ仰クニ急ナルヘキニ付其ノ通りナラサルハ畢竟聯合側ノ決意ヲ測度セムトシツ、アルモノナリ佛國ハ二百萬ノ死傷ヲ出シ田野荒廢ニ歸シ工業破壞セラレ慘憺タル損害ニ苦シミツ、アリ大藏大臣ノ云ヘル金及證券ハ唯一ノ擔保ナルニ之ヲ以テ獨逸ヲ休養スルコトハ國民ノ許サ、ル處ナリトテ「ロイド、ジョージ」氏ニ反對シ米國「フーバー」氏ハ獨逸ノ食料ノ準備ハ漸次消費セラレ今ニシテ何等カノ方法ヲ講セサレハ五月一日ニハ右準備倉料ハ全部盡クヘシト云ヒ

○「ソニン」「クレスビー」「ハウス」「クレマンタル」「ルーシヨール」等ヨリ色々調停案ヲ提出シタルモ遂ニ決定ニ至ラス午後零時半散會ス

○三月十日最高軍事會議

一、日 時 三月十日午後三時

甲、前埃帝處分問題

イ、「ロイド、ジョージ」提議

「ロイド、ジョージ」氏ハ在維納英國「ミツション」ノ通報ニ依レハ埃國ニ於テ目下前皇帝追放ノ法律制定ノ議アリ皇
帝ハ多分瑞西又ハ英國ニ遁ルヘシト云フ處瑞西ハ聯合側ニ於テ引渡ノ要求ヲナササルヘキコトヲ言明セサル以上入
國ヲ許可セサルヘク英國又之レヲ欲セス元埃國皇帝ハ「カイザー」ト異リ現戰爭ニハ直接ノ責任ナク又殘虐ノ處爲
命シタルコトモ無之ニ付之レヲ罰スルニモ及ハサルヘシ免ニ角埃國ヲ去ルニ異存ナク瑞西ニ赴クモ引渡ヲ要求セ
ルヘキ旨表明致度自分トシテハ皇帝ヲ國外ニ通レシムルコト此際適當ノ處置ナルヘシト思考スト述ヘタルニ

ロ、「ソンニ」男ハ別段異存ナキモ事實ノ問題トシテ目下責任委員會ニ於テ夫々責任者ノ研究中ナルニ彼ノミヲ先ツ
除外スヘキコトヲ茲ニ決定スルハ稍當ヲ得サルニアラサト思考スト反問シ

ハ、「バルフォア」氏ハ「ソンニ」男ノ言尤モナルモ引渡ノ要求ヲナサストノ證言ナキ以上ハ何國ト雖モ彼ヲ收容スル
モノナカルヘキニ付免ニ角假リニ何レニカ遁レ差支ナキ旨言明シテハ如何ト述ヘ

ニ、種々討議ノ結果「バルフォア」氏ニ前記在埃英國「ミツション」ニ對スル回答案起草方ヲ一任シ本件終結ス

乙、豫備條約中ノ航空條件審査

イ、敵國航空機全滅問題

○航空條件中ノ要點ハ敵國現存ノ飛行機及其ノ製造材料製作機ヲ全滅セシメトスルニアル處平和ノ目的ニ使用セラ
ルヘキ飛行機ノ製造監督ヲ如何ニスヘキヤニ關シ五國會議並ニ陸軍當局共ニ確定ノ案ナク

○結局「バルフォア」氏ハ(一)平時ニ於ケル國際航空ニ關スル協約並 (二)國際通商航空ノ問題ヲ特別委員ノ審議ニ附
スヘキ事ヲ提議シタルニ

○「ビション」氏ハ航空ニ關シテハ未タ各國々内法ノ制定ナク從テ之レニ關スル國際協定ヲナスコト困難ナルヘシト述

○佛國飛行將軍「ソユワル」ハ敵國航空機全滅案ト平和的航空ノ調査ヲ同時ニ行フハ困難ナルヘシト述ヘタルカ

○「バルフォア」氏ハ本件調査ハ敵機全滅ノ問題トハ全然別問題ニシテ之レカ爲メ豫備條約ノ審議ヲ遅延セシムヘキモ
ノニアラスト陳ヘ

○結局前記平和的航空問題ヲ特別委員會ノ審議ニ附スル事トナレリ

ロ、航空豫備條件承認

次テ航空ニ關スル豫備條件ヲ一讀其ノ趣旨ヲ容認シ他ノ陸海軍諸條件トノ關係ヲ考查スル爲メ之ヲ起草委員ニ廻附
スルコトニ決シタリ

丙、獨逸軍備制限問題

本問題ハ三月六日ノ最高軍事會議ニ於テ討議セラレタルカ其ノ後陸軍側ニ於テ「ロイド、ジョージ」氏提言ノ趣旨ニ基
キ新ナル減兵案作成中ナリシ處右減兵案本日ノ會議ニテ報告セラル該案ハ志願兵制度案ニシテ別ニ徵兵制度ヲ基礎ト
シタル條約案アリシカ此時既ニ長期服役ノ志願兵制度ヲ獨逸ニ課スヘキコトニ付英佛兩國間ニ了解ヲ得タルモノト見
エ又英佛以外ノ他ノ首相外相モ別ニ「ロイド、ジョージ」ノ提議ニ反對スルモノナカリシ爲別段ノ討議ヲ爲サシテ直
チ志願兵制度ノ案ヲ採用シ該案ニ付キ逐條審議シタリ

該案ハ獨逸軍ノ總兵力ヲ十四萬人ト爲セルニ對シ「フォツシユ」ハ長期服役法ニ依リテ軍隊ハ精良トナルヲ以テ過大ナ
リ國內秩序維持ノ爲ニハ十萬人ニテ足レリト述ヘ「ロイド、ジョージ」「ランシング」等ト押問答ノ末結局十萬人說ニ決
定シタリ仍テ之ト海軍及航空ノ條約案トヲ一括シテ起草委員ニ交付シ其ノ成案ヲ更ニ最高軍事會議ニ提出セシメ審議
セシムルコトトナレリ

○講和ニ關スル三月十一日第三十四次打合せ

一、日 時 三月十一日自午後三時至同四時半

一、内 容

甲、講和假條約獨逸側代表者ニ關スル報告

在「スバー」ニウダン「將軍ヨリ獨逸國務大臣「フォン、アヤユル」ハ新聞紙ニ依レハ聯合側ハ其内獨逸ニ對シ講和假條約案ヲ提出スヘシトノコトナルカ果シテ然ラハ我等ハ之ヲ受クルノ權限ヲ有セサルヲ以テ「プロックドルフ、ランツァウ」ヲ主宰トスル委員會ニ提出セラレサルヘカラサルヘシ就テハ其ノ旨豫メ通報アリタキ旨ヲ語レル由五國會議ニ報告シ來ル

乙、波蘭へ將軍派遣ノ件

○議長「クレマンソウ」ノ報告

氏ハ同國ニ於テハ獨逸側ヨリ種々妨害ヲ加ヘツツアル模様ナルカ昨日歸來セル英國「カルトン、ド、ゼアルド」將軍ノ談話ニ波蘭ニテハ「バデレウスキ」氏總理大臣タリ「ビルツスキ」氏將軍タルカ内部ニ何等ノ統一ナク政府ハ無爲ニシテ軍隊跋扈シ甚タ不取締ナリ此儘ニ放任シ置クヘキニ非レハ佛國ヨリ彼等ノ間ニ聲名アル例ヘハ「グーロー」將軍ノ如キヲ派遣スルノ必要アリトノコトナリシ旨ヲ報告シ

○「フォツシユ」元帥モ亦「カルトン」將軍ヨリ同様ノ談話ヲ聞キ之ニ對シ相當ノ措置ヲ講セムト思フモ何分「グーロー」將軍ハ片腕ニシテ双脚ヲ全フセス此ノ任ニ當ルヲ許ササルヘシト述ヘ

○種々物色ノ結果在「オルレアン」軍司令官「アンリ」將軍ヲ適任トシ之ヲ派遣スルコトニ決ス

丙、敵國側ノ「チエツク、スロバツク」國內ニ於ル反亂煽動計畫ノ件

○議長ハ「チエツク、スロバツク」外相ヨリ同國內ニ獨逸及協商國ノ反亂煽動ノ計畫ヲ發見シタリトテ之ニ對シ聯合側ニ於テ執ラレ度キ措置數ヶ條ヲ舉ゲ申出ノ次第アリタル旨ヲ報シ之ヲ會議ニ諮ルニ

○「ロイド、ジョウジ」氏ハ本件ニ關シ「チエツク」ノ押收シタル書類ヲ研究セスシテ單ニ右申出ノ書面ノミニ依リ直ニ之ヲ決定スルハ甚困難ナルノミナラス此後諸國中ニ種々ノ面倒ヲ起スモノナキヲ保セス從テ本件ニ對シテハ慎重ノ態度ヲ以テ臨ムノ要アルヘキ旨ヲ述ヘ

○結局右押收書類等ヲ提出セシメタル上何分ノ處置ヲ決定スル事トシ「ランシング」氏ノ提議ニ依リ在「テツシエン」地方聯合國使館ヲシテ本問題ヲ調査セシメ其ノ意見ヲモ上申セシムル事ニ決定シタリ

○尙「バルフォア」氏ハ「フォツシユ」元帥ニ對シ右ノ間ニ於テ獨逸ヨリ「チエツク、スロバツク」ヲ攻撃スルノ虞ナキヤラ問ヒシカ同將軍ハ差當リ其ノ憂ナカルヘキ旨ヲ答ヘタリ

丁、「ユーゴウストラブ」要求聽取問題

先ツ議長「クレマンソウ」氏ハ三月六日附「セルブ」「クロアート」「スローベン」王國代表者「バシツク」氏ノ書翰即チ其ノ要求トシテ

一、二月十七日ノ五國會議ニ於テ「セルブ」「クロアート」「スローベン」王國代表者ハ其ノ國境問題ノ討議ニ對シテハ同國政府ト伊國政府トハ同等且ツ均等ノ地位ニ置カルヘキモノナルコトヲ述ヘタルコト

二、而シテ問題ノ友好的解決ニ審々タルヤ本件ヲ「ウヰルソン」大統領ノ仲裁ニ附セムコトヲ提議シタルコト

三、然ルニ五國會議ハ伊國委員ノ見解ヲ採用シテ本國境内問題ヲ以テ佛獨間ノ夫レト同時ニ且ツ五國會議ニ於テ審定スヘキモノト定メタル趣ナルニ「ライン」國境ハ敵國ニ對スル關係ナルニ反シ「アドリヤチック」國境ハ兩友好國政府間ニ決定セラルヘキモノナルコト

四、然シテ問題ノ公平且ツ有效ナル解決ヲ期スル上ヨリ云フモ其ノ代表者カ高等會議ニ出席シテ伊國委員ト討議スルノ必要アルヘキコト

五、以上ノ理由ノ下ニ伊國ト同國間ノ國境確定問題議題ニ上ル毎ニ高等會議ノ討議ニ參加ヲ許サレムコトヲ求めタル

書簡ヲ朗讀シ對之如何ナル回答ヲ與フヘキヤヲ會議ニ諮リタルニ

ロ、「ロイド、ジョージ」

「ロ」氏ハ小國ハ其ノ權利ニ關スル問題ノ討議毎ニ出席セシメラルルノ權アリト定マリ居リ此ノ點ニ關シ小國間タルト大小二國間ノ問題タルトヲ問ハサルモノト思考ス伊國委員モ此ノ見解ヲ容認スルモノト信スル旨ヲ述フルヤハ、「ツシニ」

男ハ二月十七日ノ五國會議ニ於テ同男提議ノ下ニ採用セラレタル塞耳比ノ領土的要求ニ關スル問題ハ先ツ專門委員會ノ審査ニ附スヘシ但シ伊太利カ直接關係セル問題ハ此ノ限ニ非ラストノ趣旨ノ決議ヲ引用シ之ヲ換言スレハ直接伊國ノ關係セル問題ハ五國會議自體ニ於テ考量セラルヘキノ定ナリ而シテ之カ爲ニ「セルビヤ」委員ハ其ノ國境問題ノ討議ニ出席シ得サル事ヲ意味セサルヘク從テ同男ハ利害關係カ五國會議ノ討議ニ出席シ其ノ意見ヲ述フルノ權利アル事ニハ同意ナルモ小國ハ最終ノ決定ニハ參加スルノ權ナカルヘシト述ヘ

ハ、「ロイド、ジョージ」

氏ハ「ツシニ」男ノ見解ニ左袒スルヲ躊躇シ更ニ三月五日白耳義ノ豫備講和條項討議參加許可ニ關スル高等會議ノ決議ヲ引用シ之ニ依レハ小國ハ問題決定ニ際シテ退去セサルヘカラスト解スヘキニ非サルヘシト注意セシカ

ニ、「ツシニ」

男ハ國境問題委員會ニ於テ小國ハ其ノ意見ヲ聽取セラレタルモ決定ニハ參加セサリキ五國會議モ領土問題ノ討議ニ

際シテハ右委員會ノ方式ニ倣フヘキモノナルヘシト主張シ

ホ、「ランシング」

氏ハ最終ノ決定ニ當リテハ兩當事者共ニ出席シ居ルカ若ハ共ニ退去セサルヘカラサルヘシト述ヘ

ヘ、「クレマンソウ」

氏ハ最終ノ決定ハ五國會議自身ノナスヘキ所ナルヘシト主張シ

ト、「ロイド、ジョージ」

氏ハ其ノ點異存ナキモ問題ハ最終ノ決定ニ際シ兩當事者共ニ留マルヘキカ若ハ其ノ一方ハ退去スヘキヤニ在リト述ルヤチ、「オルランド」

氏ハ本問題カ單純ニ伊國ト「セルビヤ」王國自身トノ間ノ問題ニ非スシテ一部ハ舊「セルビヤ」王國領土一部ハ舊敵國領土ヨリナル新國家トノ間ノ問題ニ關シ現ニ前書簡ニ於テモ「セルブ」「クロアツト」「スローベン」代表者ノ名義ヲ用井居レリ問題ハ結局此新國家ヲ認ムヘキヤ否ヤニ在リ聯合與國ハ免モアレ右承認ハ伊國ノ好マサル處ニシテ又今日ニ至ル迄之ヲ承認スルコトナカリキ自分ノ關スル限リ「クロアツト」人及伊國ノ立場ヨリ言ヘハ是等敵人ノ出席ハ埃洪國代表者ノ出席ト選フ所ナシ要スルニ問題ハ敵國ト同盟與國トノ國境問題ヲ敵人ノ面前ニ於テ議スヘキヤ否ヤニ在リ聯合與國ハ如何ニモアレ自分トシテハ斷シテ斯ル討議方法ヲ認容スルコト能ハス

リ、「ツシニ」

「クロアツト」「スローベン」人ニ他ノ敵人ニ對スルカ如ク我條件ヲ押附クル代リニ彼等ノ意見ヲ聽取スル事ニ同意セリ之レ大讓歩ニシテ如何ニ吾人ノ立場ノ和衷的ナルカヲ示スモノナリ然レトモ之以上敵人ト討議討論スルノ義ハ斷然之ヲ拒絕セサルヘカラス

ヌ、「ロイド、ジョージ」

「オルランド」氏ノ「クロアツト」スロベニア人ニ對スル態度ハ之ヲ諒スルモ全戰爭中聯合國ト協同奮闘セシ「セルビヤ」人ヲ其ノ國境問題ノ討議ニ出席セシメサルハ甚酷ナルヘシ「セルビヤ」ハ白耳義ト同様其ノ領土關係問題ノ討議ニ際シテハ會議ニ列席スルノ權ヲ與ヘラレサルヘカラサルヘシ

右「オルランド」氏ノ主張竝「ロイド、ジョージ」氏修正意見ハ一般ノ承認スル所ナルヘク聯合與國ノ一タル「セルビヤ」ノ代表者ハ同國國境問題ノ討議アル毎ニ會議ノ討議ニ參加スルヲ許サレサルヘカラサルヘシ
ヲ、「ソニン」

「バシツチ」氏ハ「セルビヤ」ノ代表者トシテ會議ニ來ラス「セルブ」「クロアツト」スロベニア「王國」代表者トシテ出席セリ恐ラク「ツルンビツチ」及前奧洪國公使「ツオルゲル」等ニ依リ支持セラルルコトアルヘシ
ヲ、「ビション」

氏ハ「バシツチ」氏ニ對シ會議ハ喜ンテ「セルビヤ」ノ代表者ヲ迎フヘキモ未タ協商國全體ノ承認ヲ受ケサル際「セルブ、クロアツト、スロベニア」王國代表者ヲ受クルヲ得サル旨ヲ回答スヘシト提議セシカ

カ、「オルランド」

本件ハ伊國ニトリ甚重大ナル結果ヲ來タスノ虞アルト同時ニ迅速解決ヲ要スヘキ問題トモ思ハレサレハ同僚ト協議ノ時ヲ得ムカ爲ニ會議ニ於テ本件ノ討議ヲ數日間延期セムコトヲ切望ス

■、「ロイド、ジョージ」

氏モ此希望ニ副ハムコトヲ主張シ

タ、「ランシング」

氏ハ終ニ臨ンテ其ノ政府ノ所見カ偶々前顯「ロイド、ジョージ」氏ノ所見ト一致シ本問題ハ全然「セルビヤ」ニ關スルモ

ノニシテ同國ノ領土獲得若ハ併合ハ事態ニ加除スル所ナシト述ヘ

レ、尙ニ二應答ノ未結局本件討議方延期ニ決定セラル

○三月十五日最高軍事會議

一、日 時 三月十五日（十三日休會、十四日ハ開催ノ筈ナリシモ「ウヰルソン」大統領到着ノ日ニ當リ休會）

一、内 容

甲、航空委員任命ノ件

○三月十日最高軍事會議ノ決議ニ基キ航空委員任命ノ件ヲ討議ス

○佛「ビション」氏ハ大國ノ外白耳義伯刺西爾希臘羅馬尼亞塞爾比亞五國ヨリモ各一名ノ委員ヲ任命スルノ可ナルヘキヲ提議シ英「バルフォア」氏ハ「アゾール」島ノ關係上葡萄牙委員ヲ加ヘムコトヲ希望シ

○米「ランシング」氏ハ玖馬ノ委員ヲモ加入セシムコトヲ主張シ

○全部採用セラル

乙、陸海軍並空中條項及波蘭國境問題延期

次テ講和豫備條約陸海軍並空中條項討議ノ筈ナリシモ「ウヰルソン」大統領ハ

之ニ對シ考慮ノ時間ヲ與ヘラレタシト未タ出席ノ運ヒニ至ラサルヲ以テ其ノ討議ヲ延期ス

尙波蘭國境問題モ同日ノ日程ニ上リシカ同問題ハ審査委員ノ報告ナカリシ爲討議ニ至ラス散會ス

○支那委員ノ要求覺書

三月八日講和會議書記局ヨリ支那側委員ノ提出セル三種ノ覺書寫ヲ送付シ來レルカ

(A) ハ講和假條約中ニ挿入スヘキ支那ノ獨塊兩國ニ對スル要求條項

(B) ハ膠州灣租借地及山東省ニ於ケル鐵道其ノ他ノ權利ノ直接還附ヲ要求スル理由

(C) 右ノ附屬參考書ニ關スルモノニシテ

大要左ノ如シ

(A) 要求ノ條項

一、支獨間ノ戰爭狀態ハ兩國間ノ一切ノ條約取極ヲ終了セルヲ以テ右ニ基キタル一切ノ權利特權免除殊ニ膠州灣租借權及山東省ニ於ケル鐵道鑛山ニ關スル權利ハ支那ニ復歸セリ

支那政府ハ山東省ニ於ケル各國商工業ノ發展及之ニ對スル機會均等主義ノ進捗ヲ希望シ租借地ノ恢復ト同時ニ青島及山東省ニ於ケル他ノ適當ナル土地ヲ外國貿易ノ爲メニ開放セムトス

二、獨逸ハ今後支那トノ新通商條約ノ基礎トシテ平等及互惠ノ主義ヲ採用シ最惠國條款ヲ廢棄セムコトヲ約ス講和假條約調印ノ日ヨリ新條約締結實施ノ日迄獨逸船舶及獨逸品ニ對シ無條約國ニ對スル關稅及規則ヲ適用ス

三、獨逸ハ支那ノ對獨宣戰ノ日ヨリ團匪事變條約中ヨリ脱退シタルモノニシテ右條約ニ基ク一切ノ權利要求ヲ支那ニ對シテ拋棄ス

四、獨逸カ支那ニ於テ有スル建物及埠頭兵營要塞軍器艦船海底電線無線電信機及他ノ公有財產(公使館及領事館ヲ除ク)ヲ支那ニ讓渡ス

押收保管セル私有財產ハ支那政府カ其ノ現狀回復ノ不能又ハ支那ノ公益ト一政セサルモノト認ムル外之ヲ返還ス但

シ本條後段ノ規定及聯合國ノ共通政策ニ牴觸セサル範圍内ニ於テス獨逸ハ支那カ右私有財産又ハ其ノ賣上代金ヲ先
ツ第五條及第六條記載ノ支那ノ要求次ニ聯合國ノ要求ヲ充タス迄支那ニ於テ保管スルコトニ同意ス

五、獨逸ハ支那政府及國民ノ本戰爭ノ爲メニ蒙レル損害補償ヲ約ス

六、支那ハ講和豫備會議ノ決議ニ從ヒ戰費賠償要求權ヲ留保ス

七、捕虜及非戦闘員抑留ノ費用ヲ互ニ差引仕拂フコトヲ約ス

八、獨逸ハ團匪事變ノ際支那ヨリ持歸リシ天文觀測機其ノ他ノ美術品ハ返還ヲ約ス(此點脫)

對埃國要求條項ハ條約ニ(此點脫)基ク一切ノ權利支那ニ復歸セルコトヲ規定セル點及團匪事變ノ際持歸リシ物品ノ返還ノ規定ヲ設ケサルコトノ二點ヲ除キ對獨要求ト全然同一ナリ

(B) 獨逸ノ諸權利直接還付ヲ要求セル理由覺書

甲、山東省ニ於ケル獨逸ノ租借權及鐵道鑛山權ノ獲得ノ由來及其ノ變遷權利ノ範圍ヲ説明シテ五十基米突特別地帶ノ性質及鐵道鑛山ニ對スル警察權ノ支那ニ存スルコトヲ力説シ

乙、日本ノ軍事占領ノ由來及範圍ニ付各方面ヨリ日本ノ行動ヲ指摘非難シ特ニ時々不穩當ノ文字ヲ使用セリ但シ事實列記ノ體裁ヲ取レリ

一、日本ノ獨逸ニ對スル最後通牒及宣戰ニ際シ支那ハ青島攻撃ニ參加セムコトヲ希望セシモ日本之ヲ容レザリシコト

二、日本軍ノ龍溝上陸ト英軍ノ租借地上陸ト對照シテ日本軍ノ中立侵害ヲ暗ニ攻撃セリ

三、支那ハ中立維持ノ爲メ交戰地域ヲ設定シテ之ヲ各國ニ通知シ同時ニ日本トハ特別ノ協定ニ依リ日本軍ノ濰縣以西ニ進出セサルコトヲ定メタリ

四、日本軍ハ右ニ拘ラス濰縣以西ニ進出シ鐵道鑛山ヲ占領シ支那軍隊ノ撤退ヲ強要シ鐵道ニハ漸次日本人ヲ使用シ又鑛山ノ探掘ヲ再開セリ

五、青島陷落後支那ハ日本軍ノ鐵道沿線撤退軍用輕便線及電(脫)ヲ要求セシモ容レラレス更ニ戰鬪區域撤廢ヲ宣言セシニ日本ハ之ヲ以テ不當獨斷ニシテ且國際信義ヲ無視スルモノトナシ之カ爲日本軍ノ行動ヲ妨ケ得サル旨ノ回答ニ接セリ

六、日本カ其後青島稅關ニ日本人ヲ任用セムコトヲ要求セルニ對シ右ハ稅關行政ヲ紊ルモノト思考シ之ニ應セザリシニ談判中日本軍ハ之ヲ占領セリ

七、日支交渉二十一ヶ條ノ要求ヲ說述シ日支條約ハ日本ノ最後通牒及軍事行動ノ爲不本意ナカラ調印ヲ餘義ナクセラレタルモノナルコト及右ハ何レ平和會議ニ於テ最終解決ニ至ルヘシトノ自覺ヲ以テ締結セルモノナルコト

八、租借地外坊子張店及濟南ニ民政廳ヲ設立セシコト特ニ支那人ニ對シテ裁判及徵稅マテモ行ヒシコト
九、日本軍ノ存在及永久占領ヲ目的トスト認メラレタル民政廳ノ設置ニ依リ支那國民ノ感情非常ニ激昂セルニ付支那政府ハ平和會議ニ於テ萬事ノ解決ヲ見ルマテ一時民心ヲ鎮靜セシムルノ策トシテ千九百十八年九月ノ日支協定ヲ見タル次第ナルコト

丙、租借地鑛山鐵道權還付要求ノ理由及直接還付ヲ主張スル理由ハ顧維鈞ノ一月二十八日五國會議ニ於ケル演說(講和會議調書其第五六頁參照)ト同様ニシテ唯詳細ニ記述シ居ルノミ

(C) 參考書類

(一) 膠州灣委付ニ關スル條約

(二) 山東鐵道章程(千九百年三月二十一日)

(三) 膠州及高密獨軍撤退ニ關スル獨支取極(千九百〇五年十一月二十八日附)

- (四) 鑛山權還付ニ關スル取極
- (五) 交戰地帶設置ニ關スル北京外交團宛外交部書翰
- (六) 中立侵害ニ對スル日本公使宛外交部抗議(千九百十四年九月二十七日附)
- (七) 膠濟鐵道占領ニ對スル日本公使宛外交部抗議(千九百十四年九月三十日十月九日附)
- (八) 同上ノ件ニ關スル外交部宛日本公使回答(同年十月二日附)
- (九) 交戰地帶撤去ニ關スル在支日英兩國公使宛外交部公文(千九百十五年一月七日)
- (一〇) 交戰地帶撤去ヲ承認スルコトヲ拒絕セル外交部宛日本公使書翰(同日附)
- (一一) 同上ノ件ニ關スル日本公使宛外交部書面(同年一月十六日)
- (一二) 對支要求二十一ヶ條
- (一三) 對支最後通牒
- (一四) 最後通牒ニ對スル日本ノ説明
- (一五) 最後通牒ニ對スル支那ノ回答
- (一六) 大正四年日支條約及交換公文
- (一七) 支那ノ對獨應戰
- (一八) 大正七年九月二十四日附山東省民政撤廢等ニ關スル後藤外相宛章公使返翰及同日附滿蒙及山東諸鐵道借款契約

波蘭委員會會

○波蘭委員會第三次會合

一、日 時 三月一日

一、內 容 波蘭ト獨逸「チエツク」間國境問題(小委員會組織)

委員長ハ波蘭ト獨逸ノ國境ニ關シ委員會ノ意見ヲ三月八日迄ニ報告スヘキ様五國會議ヨリ通達アリタル旨ヲ報シ協議ニ移リタルカ本件ニ付佛英米ノ委員ハ各自準備セル國境案ヲ提出シ地圖ニ照シ且人種分布行政其ノ他ノ關係ヨリ各其ノ立案ノ趣意ヲ説明セルカ三案トモ大體ニ於テ一致セルモ尙打合セノ上一案ヲ作製セシムル爲右三國ノ専門家ヲ以テ小委員會ヲ組織シ之ニ服スル事ト爲レリ

一方「チエツク」及「ラチボウル」方面ニ於ル波蘭ト「チエツク」トノ國境如何ニ付「チエツク」委員等ニ於テ至急波蘭委員會ノ意見ヲ承知スル必要アル由ニテ本問題ヲモ前記小委員會ニ附託シ取急キ意見ヲ委員長ニ提出セシムルコトニ決セリ尙委員長ハ本委員會ノ波蘭國境ニ關スル意見調製ノ任務カ波蘭ノ東方及北方ニモ及ヘルモノト了解シ居レル由ナリ

○波蘭委員會第四、五、六次會合

一、日 時 三月六、七、九日

一、內 容 波蘭獨逸間境界問題

イ、小委員會ニ於ル論議

波蘭獨逸間境界線立案ノ爲メ設ケタル小委員會ニ於テ

- (一)波蘭西方境界線ニ付テハ一致ヲ見タルモ「ダンチツヒ」及其ノ南方一帯ノ地域ヲ波蘭領トナスコトハ委員會ニ
ヲ既ニ決定)
- (二)波蘭ト東部普魯西間ノ境界線ニ關シテハ佛國委員ハ「エルビング」(Elbing)ヲモ波蘭領ト爲サムト主張シ英米
ハ「ヴィスチユラ」ノ東ニ止メムトシ未決ノ儘本委員會ニ報告シ委員會ニテ更ニ討議ノ上折衷シテ結局「ノガット」
(Nogat)河ヲ以テ境界線ノ一部トナス事ニ決シ此決議ニ基キ境界案ヲ作り五國會議ニ報告スルコトトナセリ
- ロ、境界案ノ大要

(一)波蘭西方境界線ハ「モラヴィア」北方「Neustadt」ノイスタット」ノ東約八哩ノ地點ヨリ起リ數多屈曲凹凸ヲ爲シ
ツツ先北走ノ後西北ニ折レ西方ニ曲リ「Lisse」リツツサ」(Lissa?)「Glagara」ガラカラ」(Glogau?)ノ間頃ヨリ北
方ニ轉シ更ニ東北ニ向ビ「リッケスヘルト」Rixhoerst (Rixhöft?)ノ西ニテ波羅的海ニ達ス「オッペン」Oppeln
「オストロワ」Ostrowo「ラツキツ」Rawicz「ビランツム」Birnbaum「ミエナイスチエュール」Schneidemühl
「ノリツツ」Konitz「メエラコウキツツ」Sierakowitz「ツアルノウキツツ」Zarnowitzハ波蘭領ニ入り「ナインゼ」
Neisse「ブリーツ」Brieg「ノイミツチルツルツ」Neumittelwalde「トラシケンツルツ」Trachenberg「ギトメツ」Bomst
「シエウホーリン」Schwerin「シロイツ」Kreutz「シエロツンツ」Schlochau「ブエウツ」Buetow「ラウマンズン
カ」Lauenburgハ普魯西領ニ入ル

(340)

(二)東部普魯西ノ境界線ハ、北緯五十四度二十二分二四東經十九度二十二分〇五ニ始マリ「ノガット」Nogat東河口
ヨリ同河ヲ遡リテ「マリエンブルグ」ノ東北入基ノ地點ニ至リ夫ヨリ數多ノ凹凸屈曲ヲ爲シツツ大體ハ東南ニ向ヒ
「ランデインツ」Randnitz (Randnitz?)ノ北方ヲ經テ「ナイテンブルヒ」Neidenburg「ムラワ」Mlawra間ヨリ獨露
國境ニ達シ夫ヨリ該國境ニ沿ヒ東方ヨリ屈曲北方ニ進ミ「ニーメン」河ニ至リ夫ヨリ同河ヲ下リ「デルタ」ノ「スキ
ルウキエトアルム」Skirwieharnニ沿ヒ「クリツシエスハツフ」Kursheshaffニ出テ「リツテン」Niddenノ南四

基ノ點ヲ經テ海ニ至ル

尙「アレNSTAIN」Allenstein行政管區方面ニ於テ「プレビシット」一般投票ニ依リ所屬ヲ決セシメムトセル一
帶ノ地域アリ

(341)

國際聯盟委員會

○人種的差別撤廢ニ關スル帝國委員ト濠洲首相トノ會談要領

三月十四日濠洲首相「ヒュース」氏ト會見ノ機會ヲ得タルニ付キ牧野珍田兩委員同氏ヲ訪問シ人種的差別待遇ノ撤廢問題ニ關シ國際聯盟委員會ニ於ケル日本ノ提案及其ノ成行竝ニ提案ノ理由等ニ付キ大體二月十三日國際聯盟委員會ニ於テ帝國委員ノ陳述シタルト同様ノ意味合ヲ以テ說述シ殊ニ日本ノ主張ハ決シテ直ニ現存ノ法制ヲ改正セシメトスル意ニ非ス唯タ均等待遇ノ大主義ヲ闡明セムトスルニ在リ移民問題ノ如キ實際ノ案件ニ關シテハ將來彼我當局ノ達シ得キ解決ニ讓ルヘシトノ點ニ特ニ重キヲ置キテ話シタルニ「ヒュース」氏ハ人種的差別待遇ノ撤廢ハ主義トシテハ何人モ異論無キ問題ニシテ自分モ主義上異議ヲ挾ム譯有ラス只タ實際問題トシテハ極メテ重大且ツ困難ナル問題タルヲ免レス事ノ是非ハ別トシテ濠洲ニハ濠洲ノ輿論及ヒ立場アルヲ以テ自分ニ於テハ十分是ヲ顧念セサルヲ得サル境遇ニ居ルノ事情ハ諒察ヲ乞ハサルヲ得ス從ツテ自分ニ於テハ右主義ニ對シ異論無シトスルモ之ヲ支持スルニハ日本側提示ノ字句ニテ支障無キヤ否ヤ十分ニ講究ノ上ニ非ザレハ確言シ難シト云ヘルニ付我カ委員ハ前述ノ通り我カ主張ハ專ラ主義ノ闡明ニ在リ然シテ此ノ主義タルヤ國際聯盟ノ大方針ニ適合シ何人ト雖反對ナカルヘク又タ日本ノ輿論モ此ノ點ニハ強硬ノ態度ヲ執リ居ルヲ以テ篤ト熟考ヲ遂ケラレ度ク日本委員ニ於テハ國際聯盟問題ニ關聯シ最近ノ機會ニ於テ更ニ上述趣旨ノ提議ヲ爲スヘキ心算ナルニ付キ贊成ヲ希望ス尤モ提案ノ形式「フオルミニウラ」ニ付キ出來得ル限リ貴見ヲ參酌スヘキニ付キ此點ニ關シテ腹藏ナク意思ヲ交換スル爲メ十分ニ右提案ノ研究ヲ乞ヒ度キ旨ヲ述ヘ再會ヲ約シテ別レタリ

要スルニ「ヒュース」氏ハ終始「ノンコミツタル」(責任ヲ執ラサル)ノ態度ヲ執リタルニ付果シテ如何ナル修正案ヲ出スヘキヤ豫測シ難シ

○南洋諸島委任統治ニ關スル帝國委員ト濠洲首相トノ會談要領

三月十四日人種の差別撤廢ニ關シ濠洲首相「ヒュース」氏ト會談ノ際日本ノ主張ニ係カル南洋諸島委任統治問題ニ言及シ本問題ニ對スル濠洲ノ態度鮮明ヲ缺ケル點ニ付キ紐育總領事發外務大臣宛第二六號(本文末尾參照)「クインズランド」州首相言明等ヲ援引シテ「ヒュース」氏結局ノ所見ヲ叩キタルニ對シ同氏ハ自分ハ新聞ニ依リ右言明ヲ仄聞シタルノミニテ其ノ報道ノ正確ナルヤ否ヤヲ知ラサルモ此ノ問題ニ付キテハ日本政府ト英本國政府トノ間ニ諒解アルコト故濠洲ニ於テ之ニ容喙スヘキ地位ニ在ラス從テ委任統治制度ニ依リ日本カ赤道以北ノ諸島ニ對シ委任統治國トナルコトニハ自分ニ於テ何等故障ヲ稱ヘサル心算ナリト明言セリ尙ホ同氏ハ進シテ今日ハ未タ赤道ノ南北共ニ何國ヲ委任統治國ニ指名スルヤ全ク定マラス右ハ畢竟歐洲及近東ノ委任統治國問題未決ノ爲ナラムモ遠隔ナル太平洋諸島ニ付委任統治國タルヘキ國家ヲ指名スルハ目下ノ急務ナリト述ヘ此點ニ付キ兩國協同シテ盡力セムコトヲ約シタリ

大正七年十一月二十八日在英珍田大使ト「ヒュース」氏ト會談ノ際ニ於テモ同氏ハ濠洲ハ赤道以南ノ諸島ニハ利害關係アルヲ明言シタルモ赤道以北ノ諸島ニ關シテハ全然其ノ意見ヲ留保シ日本ノ領有ニ反對ナキヤ否ヤニ付キ明言ヲ避ケタルヲ以テ此點ハ我方ニ於テ明カナラス懸念ヲ抱キ居タル處ナリシカ前記ノ言明ニ付キ同氏ノ態度明白ニナリタルコトハ本問題ニ於ケル我カ地位ニ一進歩ヲ爲シタルモノト信ス

備考

在紐育矢田總領事發電第二六號(大正八年二月一日着)

英國政府ノ招キニ依リ渡英ノ途ニ在ル濠洲「クインズランド」首相「トーマス、ゼー、ライアン」(Thomas J. Ryan)氏ハ三十日當市「ヘラルド」紙記者ト會見シ大要左ノ如キ意見ヲ述ヘタル由

最近新聞ノ報道ニ依レハ問題ノ要點ハ日本カ密約ニ依リ「コロリン」「マーシャル」群島ノ絕對的所有權ヲ獲得スヘキヤ否ヤニ在ルカ如シ此等群島ハ濠洲ノ防備ノ外廓ヲ爲スモノニシテ此處ニ敵國ノ海軍根據地設定セラレムカ夫ハ米國ノ太平洋ニ於ケル屬領並濠洲ニ執リ威嚇(メネース)タルヘシ今次ノ戰爭中「コロリン」島ノ庇護セル敵國艦隊ハ英國艦隊ヲ擊滅セリ余ハ斯ル優勝ナル地域ヲ日本ニ與ヘラルルコトニ對シ濠洲民ハ全然反對スルモノナルヲ信ス最モ注目スヘキハ濠洲及日本ノ委員カ一致シテ米國ノ意見及利益ニ反對ノ態度ニ出テ居ルコトナリ云々

茲ニテ記者濠洲委員ノ此態度ハ濠洲民ノ意思ヲ代表スルモノナリヤト問フ

「ラ」氏曰ク新聞ノ報セル所ニ依レハ「ウヰルソン」大統領ハ濠洲民ノ輿論ノ確證ヲ求メタリトノコトナルカ之レハ最モ當ヲ得タリ先ツ濠洲民ニ其ノ密約ヲ示シ全局ノ事情ヲ展示シ其ノ選ム所ヲ取ラシメタル上ニアラサレハ何人ノ意見ニ對シテモ爾カク信ヲ措クニ足ラス余ハ平和會議カ真ノ濠洲輿論ヲ知ラムカ爲ニ充分ノ注意ヲ拂フヘキヲ疑ハス新聞ノ報道ニ依ル首相代理(アクテイニング、ブライム、ミニスター)ノ發セル聲明(ステートメント)ナルモノハ全局ヲ披瀝セスシテ濠洲政府ハ此等群島ノ國際的支配ニ反對シ日本ノ之レニ對スル要求ヲ支持スルカ如キ感想ヲ世間ニ與ヘタリ然レトモ濠洲民ハ臆テ真相ヲ見ルニ至ルヘシ米國ト濠洲ト利害ハ共同的ナリ兩者ハ人種及國語ヲ同クシ太平洋ニ於ケル自己防衛ノ必要上自然ノ同盟國ナリ濠洲及米國ハ太平洋ヲ越ヘテ手ヲ結ヒ太平洋ニ於テ兩者ニ威嚇(メネース)トナリ從テ之レニ對抗スル太平洋防備ノ手段ヲ講スル爲メ巨萬ノ金ヲ費ササルヘカラサルニ至ルカ如キ此優勝ノ地位ノ他ノ國ニ與ヘラルルヲ妨ケサルヘカラス云々

損害補償委員會

○損害補償委員會第十一次會合

一、日 時 三月三日

一、出席者 日本側ヨリ森、長岡、巽

一、内 容

議長ヨリ當委員會ノ質疑ニ對スル五國會議一應ノ回答(三月一日五國會議參照)ヲ報告セルニ戰費ヲ包含スルモノト否トノ二種ニ分テ要價目的ヲ作成スルコトニ付議論出テ結局第一分科會ノ議事ヲ從來ノ儘進行セシメ居ル間ニハ五國會議ヨリ決定的回答來ルヘシト云フニ一致セリ

○損害補償委員會第十二次會合

一、日 時 三月六日

一、内 容

甲、第一分科會經何事項審議

イ、經何事項

第一分科會ノ經何ニ係ル左記二問ヲ審議ス

(一) 分科會ハ如何ナル基礎及程度ニ於テ露國ノ利益ヲ考慮スヘキヤ

(二) 佛國カ「アルサス、ローレン」ヲ恢復スル場合ニ同地方民間ニ流通スル減價セル獨逸貨ヲ佛國政府ニテ償却

スルノ問題ヲ論究スルノ權限アリヤ

(一) ハ二月二十四日第十回補償委員會記事ニアルカ如ク議長ヨリ一提議アリタルノミニテ委員會ノ決議ヲ經タル次第ニアラス

(二) ハ佛國委員ヨリ第一分科會ニ提出セル損害種類覺書中法律上及事實上敵國權下ニアリタル地方住民並ニ俘虜及抑留者ノ有スル敵貨償却ノ爲メニ生シタル損害ナル一項アリシカ佛國委員ハ前記地方中ニ「アルサス、ロレン」ヲモ包含スル旨ヲ述ヘタルニ基クモノナリ

ロ、決定

以上二問ニ關シ種々意見ノ交換アリ結局

(一) ハ既ニ主義上ノ同意アリタル事情ナルニ付分科會ハ之レカ調査報告ヲナスヲ要ス

(二) ハ第一分科會ノ權限事項ナルカ故ニ同分科會ハ當然之レヲ審議セサル可ラス右損害要求ノ當否ニ付異論アラハ分科會ハ報告中ニ之ヲ記載セハ足レリ

トノ議長ノ意見成立セリ

乙、第二分科會經何事項附議

次ニ第二分科會ノ經伺ニ係ル諸件(三月七日巴里發電第二分科會記事第二A乃至B)ニ關シ意見交換ノ末分科會ニ於テ更ニ其ノ内容ヲ詳細研究シ其上ニテ委員會ニ附議スル事トナレリ

○損害補償委員會第十三次會合

一、日 時 三月十一日

一、出席者 森、巽

一、内 容

敵國連帶責任ノ原則討議

一、伊國委員ノ説明

前回ノ申合せニ基キ敵國連帶責任ノ原則問題附議セラレ伊太利委員ハ本原則提出者トシテ其ノ理由ヲ説明シ『共同不法行為者ノ連帶責任ハ多數國ノ國內法ニ認ムル確定原則ナリ今回ノ戰爭ハ戰場ノ異ナルニモ拘ハラス單一ナル戰場トシテ取扱ハレタルモノナレハ本委員會ハ賠償上敵國共同責任ノ原則ヲ認ムヘシ』ト述ヘタリ

二、小國ノ賛成

塞耳比羅馬尼波蘭諸國委員本説ニ賛成ス但シ塞耳比波蘭兩國ハ塊洪國ノ責任ハ現在塊洪トシテ認メラルル領域ニ限ルヘキ留保ヲナス

三、佛國委員ノ留保

佛國委員ハ本原則ハ極メテ重大ナレハ更メテ政府ノ訓令ヲ仰ク迄意見ヲ發表スル能ハストノ旨ヲ留保セリ

四、白耳義委員

白耳義委員ハ伊國ノ對獨宣戰ノ對塊國宣戰ノ後ナルヲ指摘シ其ノ請求權ハ交戰期間ニ應シテ分配セラルルヲ至當トスヘキコトヲ述ヘ反對シ伊國委員之ヲ反駁シ宣戰ノ日ハ何等ノ影響無キ旨ヲ論ス

五、英米委員ノ沈黙

此日英米委員ハ沈黙ヲ守ル但シ米國ハ原則ニ反對ノ意見ヲ有スルカ如ク英國委員ハ實行論トシテ此ノ原則ヲ是認スルノ外ナカルヘシト森委員ニ語り佛國委員ノ意嚮不明ナルモ本日留保ヲ存セルハ米國委員ト内議ノ結果ナリ

○損害補償委員會第一分科會第六次會合

- 一、日 時 三月一日
- 一、出席者 日本ヨリ長岡
- 一、議 題 損害ノ種類ニ關スル各國覺書表審議

(詳細ハ第三、四、五次會合ノ分ト併セテ記載セリ)

○損害補償委員會第一分科會第七次會合

- 一、日 時 三月四日
- 一、出席者 森委員
- 一、内 容

甲、佛白伊覺書修正

前顯各國ヨリ提出シタル損害種類覺書摘要書ニ對シ佛國白國及伊國委員ヨリ修修正案ヲ提出ス前者修正ハ本邦ニ何等直接關係ナキ問題ナリ伊國ノ修正ハ

船舶減少ヨリ生スル運賃増加及輸出減退ニ基ク爲替相場ノ低落漁業ノ損失石炭缺乏ノ結果森林過伐ヨリ生スル損失戰爭ニ基ク農業工業ノ生産不能ヨリ生スル損失

ヲモ挿入セムトスルニアリシヲ以テ議長ハ斯ノ如キ經濟的因果ノ現象ヲ一々列舉セハ遂ニ際限ナキニ至ルヘシトテ伊國委員ニ再考ヲ求メタリ

乙、米國委員ノ各國要求額計數提出希望

以上ノ如キ問題ニ約四時間ヲ費シ而カモ其ノ議論屢々字句ノ修正並細微ノ爭點ニ陷レルヲ以テ米國委員ハ森委員ニ耳語シ最早忍ヒ難シ茲ニ爆裂彈ヲ投ケムト提議シテ曰ク本分科會ハ八日迄ニ本會ニ報告スルノ義務アリ損害種類ニ對ス

ル質問若ハ意見ハ書面ニテ提出セラルレハ斯ノ如キ議論ヲ以テ貴重ナル時間ヲ空費スヘカラス速ニ要求額ノ計數若ハ概數ヲ提出シ本分科ヲシテ體形ヲ具ヘタル報告ヲ爲シ得セシメムコトヲ希望スト

○議長ハ曩ニ各員ニ對シ尠クモ其ノ最大限若ハ最小限ノ計數ヲ要求シタルコトニ言及シ先ツ米國委員ニ求ムルニ其ノ計數ヲ提出シテ其ノ模範ヲ示ナムコトヲ以テシ各員ニ對シテ計數提出ノ能否ヲ諮レルニ

○佛國専門家ハ計數ハ評價方法一定ノ後ナラサレハ提出スル能ハスト答ヘ小國皆躊躇ノ色アリ

○米國委員ハ更ニ曰ク聯合國ハ數週間ニハ敵ト相見ユルニ至ルヘシ此ノ時講和全權ハ計數ナキ要求書ヲ以テ敵ト交渉シ得ヘキカ少クトモ米國ハ計數ヲ具セサル要價談判ニハ加入セサルヘシ然レトモ必スシモ確的ノ計數ヲ要求スルニアラス概數若ハ最小(脱)國ハ既ニ提出ノ用意アリト

○議長ハ米國委員ノ聲明ハ極メテ重要ナレハ今一應書面ニテ各委員ニ明示セムコトヲ希望シ一時休會ノ後米國委員ヨリ朗讀シタル處左ノ通

「第二分科ハ敵ノ仕拂得ヘキ金額ヲ附シ報告セムトス米國委員ハ腹藏ナク各員ニ豫告セムト欲ス即チ敵ヨリ一定金額ヲ要求セムニハ正當ナル最小限ノ要求額カ其ノ金額ニ達スルニ充分ナリト確信アルニアラサレハ米國委員ハ斯ノ如キ談判ニ加入セス云々」

茲ニ於テ議長ハ各員ニ要求スルニ各最小限ノ金額ヲ提出スヘキヲ以テシタリ

○損害補償委員會第一分科會第八次會合

- 一、日 時 三月五日午後
- 一、内 容

甲、損害評價方法議長案討議

議長ハ評價方法ニ關シ一般の原因ヲ討議スル際便宜トシテ自ラ私案ヲ提出シ左ノ如ク各項毎ニ承認ヲ求メタリ

一、損害ノ種類如何ヲ問ハス同一ノ損害ニ對シ二重ノ支拂ニ相當シ若ハ一個ノ被害ニ付二人ニ對シ支拂ヲナスノ結果ヲ生スルカ如キ請求權ヲ許容ス可ラサルコトハ一般ニ認ムル處ナリ

本項ニ異議ナシ

二、敵國ニ於テ責任ヲ負擔スヘキ行為ヨリ要償セラル可キ損害ノ範圍ハ該行為ノ一切ノ自然的必然の結果ヲ包含ス可シ

本項ハ責任ヲ負擔ス可キ行為ノ範圍ニ付米國委員ノ留保アリテ採用セララル

三、敵國カ責任ヲ負フ可キ軍事行動挑戰行為其モノヲ含ムニ事實上起因スルニ非スシテ單ニ偶然ニ軍事行動ト關聯スルニ過キササルノ請求權ハ之ヲ排除ス

本項ハ伊太利委員ノ留保アリテ採用ス

四、直接特定ノ立證方法ハ統計の一般的立證方法ニ屬スル何等カノ手段ニ依リ合理的確實性ヲ以テ評價スル能ハサル請求權ヲ容ルル能ハス

本項ニ關シテハ損害立證ノ途アリテモ金額ニ見積ル能ハサル場合ヲ除外スルノ嫌アリトテ副議長ハ之ヲ除外スルノ意ナク生命ハ勿論節操毀損ノ如キモ必ス之ヲ金額ニ見積ルノ途アリト辯明セルモ暫ク留保ス

五、請求權ハ純額タル可シ換言スレハ請求者ニ於テ既ニ請求ノ目的タル損害輕減ノ爲若ハ補償トシテ受領セルモノアルトキハ其ノ額ヲ差引テ殘額ニ付テノミ請求ス可キモノトス

本件ハ結局第一項ト重複セリトノ論アリトテ撤回ス

六、價格ノ直接證據ノ欠缺セル場合計算並評價上統計の方法ニ依頼スルコトヲ妨ケス但シ證明及確認上適當ナル方法ヲ適用スヘシ

本項ハ單ニ價格ノ直接證據ノ欠缺セル場合ノミナラス其ノ他充分ナル理由アル場合ヲモ包含ストシテ更メテ採用ス

七、動産タルト不動産タルトヲ問ハス被害物ノ回復費ハ其ノ被害物ニ代ヘテ更ニ高價ナル若ハ價格多キ性質ノモノヲ得ルノ費用ニ及フモノニ非ス又從來ヨリモ上等ノ材料ヲ以テ若ハ從來ヨリモ大規模ナル再建ニ必要ナル費用ニ及フモノニ非ス

本項ハ消滅當時既ニ減價シ居レルモノニ關シテ之ヲ回復スルニハ新タナルモノヲ以テスルノ外ナキ故新造新築ノ價格ヲ要求スルヲ妨ケストノ辯明ヲ以テ採用ス

八、被害物ヲ物理的ニ回復シ若ハ再建スルノ意思ナキ場合ニハ要求額ハ嚴ニ其ノ價格ニ極限シ回復若ハ再建ニ關係スル費用ヲ附加スルコトヲ得ス

本項討議多キヲ以テ撤回ス

九、請求權ニハ合理的確實性ヲ有スル信用シ得ヘキ(脱)スルコトヲ要ス但シ斯ノ如キ證據ヲ認容スヘキ特別ナル形式ニ關シテハ第一項ニ於テ當該國カ之ヲ決定スルモノトス

本項異議ナク採用ス

乙、米國委員ノ損害額覺書提出

米國委員ハ損害額覺書ヲ提出セリ其ノ各項目ノ最低額及最高額夫々左ノ如シ

| 損害種類 | 最低額 | 最高額 |
|---------|--------------|--------------|
| 不動產 | 一六二、〇〇〇、〇〇〇弗 | 三五五、〇〇〇、〇〇〇弗 |
| 動產 | 一五七、七〇〇、〇〇〇弗 | 二六六、〇二五、〇〇〇弗 |
| 其ノ他財產利益 | 一三、〇〇〇、〇〇〇弗 | 一九、〇〇〇、〇〇〇弗 |

人的損害

五、一五〇、〇〇〇弗

二、一五五、〇〇〇弗

五二

(脱) 損 害

一〇三、〇〇〇、〇〇〇弗

二二〇、〇〇〇、〇〇〇弗

計

四四〇、八五〇、〇〇〇弗

八七一、五七五、〇〇〇弗

尙ホ各項目ハ細別シテ計數ヲ示シ居レリ
以上米國委員ハ特ニ祕密ヲ希望セリ

○損害補償委員會第一分科會第九次會合

一、日 時 三月七日

一、内 容

甲、損害評價方法議長案討議

○議長ハ前回ニ引續キ評價方法ノ一般原則ノ問題トシテ動産及不動産ノ賠償額ハ左記三者ヲ包含スヘキモノナリト提議ス

一、破壊セラレタル當時ノ價格

二、破壊當時ヨリ回收ニ至ル迄ノ期間ニ於ケル豫想利得

三、其ノ他此ノ期間ニ於テ使用不能ニ因リ生シタル損害ノ合理的補償

○佛國委員ハ第一條ハ再購買再建等ノ時ノ價格ヲ標準トスヘキコトヲ主張シ議論決セサルヲ以テ本問題ハ次回ニ於テ再議ノコトトナレリ

乙、各國計數提出期

米國委員ノ發議ニ因リ各國計數提出期ヲ訊ネ佛國ヲ除クノ外諸國皆本週末若ハ來週初ニ提出スヘキヲ答ヘ置キタリ次
回三月十日ニハ計數ニ就キ調査スヘシ

備考

丙、小國ノ要價利益調査會米國委員ノ提議ニ因リ賠償委員會ニ代表者ヲ有セサル諸國ノ要價上ノ利益ヲ調査報告スル爲メ小委員會ヲ設クルコトトナリ佛國大藏書記官分科會書記其ノ他一名指名セラレタリ

散會後議長 Lord Sumner「ロード、サムメル」ハ森委員ニ對シ甲ニ掲ケタル三箇條ノ原則問題ノ解決ニ關シ相談ヲ求メ殊ニ日英共通ノ利害關係アル船舶被害ノ補償上被害當時ノ價格ヲ標準トナスコト得策ナラスヤト語レリ森委員ハ議題ノ第一箇條ハ被害後ニ於ケル過重ノ低價ヨリ生スヘキ損失ヲ保護シ得ヘキモ他ノ一方被害後ニ於ケル價額ノ騰貴シタル場合ニ高價ヲ以テ賣却シ得ヘキ機會ヲ失ヒタル損害ニ對シテ保護トナラス故ニ第一箇條ト佛國委員ノ如ク被害後ニ於ケル騰貴ノミヲ考慮スヘシトノ主張トヲ調和セムカ爲ニ茲ニ一句ヲ加ヘ被害當時ト賠償當時トノ期間ニ於ケル最高價格ヲ要求スルノ選擇權ヲ認ムルニ若カス適當ナル機會ニ此ノ提議ヲナスノ考ナルコトヲ答ヘタルニ議長ハ大ニ満足ノ意ヲ表シ之ハ(脱)ノ名案ナリトシ其ノ提議ヲ喜フ旨並自分モ次回迄ニ考究シ置カムトノ旨ヲ述ヘ別レタリ

○損害補償委員會第一分科會第十次會合

一、日 時 三月十日

一、内 容 損害評價方法各國覺書討議

伊佛米波蘭羅馬尼國委員ヨリ提出セル損害賠償評價方法覺書ノ一覽表ニ付逐條採否ヲ決ス尤モ佛國案ハ右一覽表ノ骨子トナリ居ルヲ以テ主トシテ佛國案ヲ審議ス右審議中參考トナルヘキ諸點左ノ如シ

イ、評價ノ基準タル貨幣問題

五三

佛國案第十七條損害評價ニ付各該外國ノ貨幣ヲ以テスヘシトノ原案ニ對シ「チエツク、スローヴアツク」波蘭羅馬
尼亞爾比等ヨリ其ノ貨幣ノ特別ナル狀況ヲ理由トシテ異議ヲ申出テ結局何レノ貨幣ヲ以テスルモ差支ナキコトト
ナレリ

ロ、評價時期ノ問題

○佛國案第三十四條債權(脱)若ハ修復ノ不能ナル財産上ノ損害ハ講和條約成立ノ日ニ於テ該財産ノ有シタル(脱)ヘキ
價格ヲ以テ評價ノ標準トスヘシトノ原案ニ對シ議長先ツ反對ノ意思ヲ表明シ評價時ヲ不定ナル講和條約成立ノ日ニ
取ルヲ得ス寧ロ被害當時ノ價格ニ準據スヘシト述フ森委員ハ本邦個人被害ノ主要部分ヲ占ムル船舶損害カ本項ノ下
ニ支配セラルルノ事實ニ鑑ミ又前回議長(Lord Sumner)トノ打合セノ關係モアリタルヲ以テ左ノ修正意見ヲ述ヘ
タリ

「本項ノ包含スヘキ問題ノ範圍ハ大體前回議長ノ提議セル評價ノ原則三箇條ト同一ナルコトト信ス議長ノ提議第一
條即チ被害當時ノ價格ヲ標準トスルトキハ補償當時ノ價格カ被害當時ヨリモ低落セル場合ノ損失ヲ防クニ足ル是佛
國案ニ優ル點ナリ然レトモ被害後價格カ騰貴セル場合ニハ被害物件ヲ高價ニ賣却スルノ機會ヲ失セルニ依リテ生シ
タル損害ヲ負フコト能ハス尤モ此ノ點ハ議長提議第三條ニ包含セラルルヤモ知ラサレト其ノ意味ヲ明瞭ナラシムル
爲議長案第一條ニ但シ損害ノ時ト補償ノ時トノ間ニ於ケル同種物ノ最高價格ヲ取ルノ選擇權ヲ附與ストノ追加規定
ヲ設ケ本項(第三十四條佛國案)モ之ト同一主旨ニ修正スヘシ」

○右森委員ノ修正說ニ對シ希臘委員ノ贊成說アリ又佛國委員ハ自ラ第三十四條原案ニ對シ
「但シ如何ナル場合ト雖被害當時ノ價格ヨリ低キコトナカルヘシ」

トノ追加ヲナスヘキ旨修正說ヲ出ス

○議長ハ日佛修正說共ニ極メテ重要ナレハ之カ解決ヲ次回ニ延期スヘキ旨ヲ宣ス

○損害補償委員會第一分科會第十一次會合

一、日 時 三月十一日

一、内 容 日本委員要債概算書提出

日本委員要債概算書

損害補償委員會第一分科會第九次會合記事乙ニ基キ森委員ヨリ本日右分科會ニ提出シタル本邦要債概算書ハ其ノ前文ニ於
テ此ノ覺書ハ單ニ調査進行ノ便宜ニ供スルヲ目的トセル議長ノ要求ニ應セムトスルニ過キナルコト遠隔且調査困難ノ爲實
數計上困難ナルコト從ツテ本覺書ハ決シテ正式要求ノ意嚮若ハ其ノ金銀性質ニ關スル意嚮ヲ示スモノニ非ス要債ニ關スル
帝國政府ノ特別權利及便宜ニ何等影響ヲ及ホスヘキモノニ非ス他日此ノ覺書ノ全部若ハ一部ニ追加修正増補ノ自由ヲ留保
スルハ勿論填補完成ノ必要アルコト或項目中ニ舉ケタル數字ハ概數ナルモ尙同項目中ニ於テ調査未了ノ事件アルコトヲ說
明シ置ケリ

而シテ其ノ計數左ノ如シ

第一部 個人損害

(一) 船舶ニ關スル損害

(A) 擊沈日本商船

二四五、〇〇〇、〇〇〇圓

(B) 毀損日本商船

調査中

(C) 日本人所有貨物損害

調査中

(D) 日本人所有手荷物損害

調査中

| | |
|----------------------------|----------------|
| (二) 敵ノ押收拘束其ノ他不法行為ニ因ル財産上ノ損害 | 八、四〇〇、〇〇〇圓 |
| (三) 其ノ他財産上ノ損害 | 二、二〇〇、〇〇〇圓 |
| (四) 人的損害 | |
| (A) 非戦闘員殺死 | 調査中 |
| (B) 其ノ他損害 | 調査中 |
| 合 計 (既知ノモノ) | 二五五、六〇〇、〇〇〇圓 |
| 第二部 國家ノ損害 | |
| (一) 俘虜收容費 | 六、四〇〇、〇〇〇圓 |
| (二) 戦費 | 一、〇一〇、〇〇〇、〇〇〇圓 |
| (三) 對露貸付 | 二九〇、〇〇〇、〇〇〇圓 |
| (四) 其ノ他損害 | 調査中 |
| 合 計 (既知ノモノ) | 一、三〇六、四〇〇、〇〇〇圓 |
| 總 計 (既知ノモノ) | 一、五六二、〇〇〇、〇〇〇圓 |

備考

右覺書第一部(一)ノ(A)ハ外務省講和準備委員會大正七年十二月調査第四第六項表中ノ計數ニ仁川九損害概算ヲ加ヘタルモノナリ、(二)ハ在獨日本銀行及橫濱正金銀行資金及手形證券(三月一日迄五分ノ利子ヲ加算シ)ニ過キス(三)ハ青島戰役ニ於ケル個人損害額ニ右調査第十三第三項ノ計數ヲ加ヘタルモノナリ

第二部ノ(一)及(二)ハ大正八年度豫算額ヲ含ム

○損害補償委員會第一分科會第十二次會合

一、日 時 三月十二日

一、内 容 損害評價方法各國覺書討議(承前)

第十回ニ引續キ評價方法覺書一覽表ヲ審議ス參考トナルヘキ諸點左ノ如シ

○佛國案第三十六條 貨幣若クハ貨幣ヲ以テ表示セル財産ノ差押若クハ押收或ハ課稅等ヨリ生スル損害ハ要償國ノ貨幣ヲ以テ其額ヲ表示シ之ニ被害ノ時ヨリ平和締結ニ至ル迄年六「パーセント」ノ利子ヲ附スヘシトノ原案ナリ之ニ對シ

(A) 銀行殘高手形債券等モ包含スルモノナリヤトノ森委員ノ質問ニ對シ佛國委員之ヲ肯定シ又聯合國占領地ノ損害ノミナラス敵國內債權ノ損害ヲモ含ムコトニ決定セルヲ以テ敵國內(?)本邦資金ハ本條ニ據リ支配セラルルコトトナリタリ

(B) 損害ヲ表示スヘキ貨幣ノ問題ハ第十七條ト同様選擇ノ自由ヲ存ス但爲替ノ問題ハ後日ノ決定ニ委ス

(C) 率ハ六「パーセント」、特別ナル協定存セサル場合ニ適用スルノ意ナリ

(D) 議長ハ英國ハ其ノ人民ト敵國人トノ間ニ於ケル債務ノ相殺ニ關シ直接敵國ト交渉ノ方法ヲ攻究中ナルヲ以テ本條ニ就テハ單獨解決ノ權利ヲ留保スル旨ヲ述ヘ米國委員亦同様ノ留保ヲ爲セリ

○佛國案第四十一條 有價證券ノ押收破壊ニ因ル損害ハ一九一四年前半期ノ平均價格ニ依ル開戰後發行セルモノハ發行價格ト一九一九年初三箇月ノ平均價格トノ内高キニ據ル但之ニ平和締結迄ニ得ヘカリシ利札其他ノ收入ノ額ヲ加算ス

○佛國案第四十三條 財産權ノ自由行使ヲ妨害セラレタルニ因リテ生シタル損害ハ戰前三箇年間ノ平均收入ヲ標準トシ被害期間ニ應シ之ヲ定ムル旨ノ原案ナリ之ニ對シ

(イ) 所得ハ純所得タルヘキコト並其ノ收入ハ被害期間ノ價格ヲ標準トスヘキコトノ修正說出テ

(ロ) 議長ハ適用範圍ニ付船舶及商品ハ分科會ノ(不明)案ニ屬シ(分科會第十回報告ノ件)又本條ノ文理解釋ヨリスルモ船舶及商品ヲ包含セス主トシテ農業財産ニ限ルヲ正當トスト述ヘ

(ハ) 結局再考ヲ期シテ留保ニ決定

○損害補償委員會第一分科會第十二次會合

一、日 時 三月十三日

一、内 容 損害補償方法各國覺書討議(承前)

○佛國案第五十三條 敵國ノ發セル貨幣カ如斯キ貨幣ノ買入レ所作ヲ實行セル場合ニハ之ニ要シタル實際費用ニ依リテ評價シ然ラサル場合ニハ所持者ノ受ケタル損害ニ依リテ評價スヘシ但シ一九一八年十一月十一日ヨリ平和締結ノ日ニ至ル迄年六〇ノ利子ヲ附ストノ原案ナリ

議長ハ致府ニ於テ回收セサル場合ニモ原價ヲ標準(?)トシテ要求スルハ理論上ノ瑕疵アルノミナラス投機原因タルヲ以テ不可ナリ又利子ヲ附スルコトハ其ノ理由乏シト反對シ結局政府ノ回收セル場合ノミヲ承認シ利子ニ就キテハ起算日ヲ損害ノ時ヨリト改メ承認ト決シタリ

○佛國案第五十六條、第五十七條、第五十八條、此ノ三條ハ死亡損害其ノ他人の損害ノ評價方法ニ關ス之ニ付キ

(A) 非戦闘員ノミニ限ルカ軍人ヲモ包含スヘキヤハ委員會ニ於テ未決ノ問題ナリ

(B) 原案ハ國及個人ニ付キ劃一的評價方法ヲ設ケムトスルニ在リシモ反對論多キ爲決定ニ至ラス

○本條ヲ以テ評價方法佛國案ノ審議ヲ一ト通リ終了ス但シ採用濟ミトナリタル原則ト留保又ハ延期セラレタル原則トノ關係並ニ佛蘭西以外ノ提案トノ關係ヲ明カニスル爲議長ハ今日迄附議セラレタル原則並ニ決議ノ採用ニ當リ其ノ他ノ原則ヲ除外シ若シクハ此等ノ原則ニ依リテ一切ノ場合ヲ律セムト欲スルモノニ非サル旨ノ動議ヲ提出シ決セラレ

備考

佛國案第三十四條ニ關聯シ森委員ノ提出シタル修正說(修復不能ノ動産ニ最高價格選擇權ヲ認ムル說)ハ議長ニ於テ起草中ナリ又擊沈船豫想利得ニ對スル損害計算ノ標準ニ關シテハ森委員ヨリ議長ニ申入レ置キ議長ハ計算ノ基礎ヲ備船料(「チャーター、レート」)ニ取ルニハ同感ナルモ利得ノ期間ヲ被害當時ヨリ休戰條約ノ日迄トスルコトハ頗ル躊躇ノ色アリ

何レ次回十五日議長起案ノ上ニテ附議セラレヘシ

○損害補償委員會第一分科會第十四次會合

一、日 時 三月十五日

一、内 容

各國損害種目覺書一覽表審議ノ際留保トナリタル問題中修正案ノ提出アリタルモノヲ再議ス

○損害補償委員會第二分科會

◎三月七日巴里發電

一、聯合國海運會議ヘノ諮問

戰禍ヲ蒙リタル聯合國船舶ニ對シ敵國船舶ヲ要求セムカ爲メ其ノ評價ノ必要上敵船舶ノ種類噸數船齡其他ノ明細ノ報告ヲ聯合國海運會議(International Maritime Transport Council)ニ求ムルコトトナリタリ

二、損害補償本委員會ヘノ質疑事項

佛國委員ノ提議ニ依リ本分科會ニ於テ攻究ノ結果左ノ四問題ニ關シ損害補償本委員會ニ質議スルコトトナリタリ

- A 戰時中敵ニ奪取セラレタル物品ノ回復及敵國ニ奪取セラレ又ハ戰爭行為ニ依リテ破壊セラレタル機械器具鐵道運轉材料(ローリング、ストック)木材家畜等ニ對シ現在敵國ニ存在セル代用品ヲ要求シ得ヘキヤ
- B 賠償支拂ノ一部トシテ敵國ヨリ勞働ノ供給ヲ要求シ得ヘキヤ
- C 敵國內ニ於テ賠償支拂ノ一部トシテ諸種ノ稅ヲ課スルコトヲ得ヘキヤ
- D 奪取又ハ破壊セラレタル美術品ノ代價トシテ敵國ヨリ類似ノ美術品ヲ要求シ得ルヤ

責任委員會

○責任委員會第一分科會

一、日 時 三月五日

一、內 容

甲、處罰スヘキ事實確認

英佛希委員ヨリ成ル立案委員會ノ報告ニ基キ左記ノ事實ハ其證據明瞭ナリトシテ之ヲ責任委員會總會議ニ報告スルニ決シ分科會ヲ解散ス

一、今次戰爭ハ中歐國並其ノ同盟國タル土耳其「ブルガリヤ」ニ依リ豫メ計畫セラレタルモノニシテ之ヲ避クヘカラサルニ至ラシムル爲ニ故意ニ爲シタル諸行為ノ結果ナルコト

二、白耳義「ルクサンブルグ」ノ中立ヲ故意ニ侵害セルコト

三、進撃ノ行為ハ(不明)領土内數ヶ所ニ於テ何等豫告ナクシテ爲サレタルコト

四、戰爭ハ中歐國並其ノ同盟國カ戰爭ノ法規慣例及人道ノ原則ヲ無視シ野蠻不法ノ方法ニ依リテ行ハレタルコト

乙、常設委員會ノ提議

尙將來設立セラルヘキ裁判所ニモ提出スル目的ヲ以テ今後其犯罪事實ニ關スル材料ヲ蒐集スル爲常設委員會ヲ設ケムコトヲ責任委員會ニ提議スルニ決ス

○責任委員會第二分科會

一、日 時 三月六日

一、内 容 立案委員會ノ報告審議

イ、報告ノ趣旨

報告ノ趣旨ハ前顯三月六日巴里發電(講和調書其三第九〇頁參照)ノ通第二分科會ニ關スル限り法律上訴追ヲ認めサルニ在ルモノナルカ

ロ、英國委員ノ彈劾機關ニ關スル提議

英國委員ヨリ右報告ノ末尾ニ講和會議ニ於テ開戦及中立侵害ノ首謀者ニ對シ適切ナル彈劾的宣言ヲ爲ス爲メ特別機關ノ設置ヲ適當ナリト認ムルコトヲ得ヘキ旨ノ文句ノ挿入ヲ提議シ採決ノ上解散ス

ハ、佛國委員ノ制裁機關設置提議

佛國委員ヨリ右犯人ヲ訴追セサルトスルモ之ニ對シ例ヘハ「ホーヘンツォルレルン」家ノ失權等ノ手段ニ依リ體刑以外ノ制裁ヲ科スル爲メ講和會議參加諸國ノ代表者ヨリ成ル特別機關ノ設置ヲ講和會議ニ要求スヘシト提議セシモ右ハ寧ろ責任委員會總會ヨリ講和會議ニ提出スヘキ報告中ニ記載セラルヘキモノニ屬シ分科會ヨリ委員會ニ爲スヘキ報告ニ入ルヘキモノニ非ストシテ否決ス

○責任委員會第三分科會

一、日 時 三月八日

一、内 容 立案委員會修正報告決議

立案委員會修正報告ヲ決議シ之ヲ責任委員會本會議ニ提出スルニ決ス、右報告ハ全部五章ヨリ成リ其大要次ノ如シ

第一章 第三分科會ノ權限

第三分科會ハ戰爭中行ハレ第一分科會ノ調査事實ニシテ訴追ノ目的トナル場合ニハ責任者ニ就キ如何ナル裁判ノ目的

トナルヤニ關シ意見ヲ開陳スルノ權限ヲ有スル處右權限ニ基キ左記報告ヲ爲ス

第二章 戰爭ノ法規慣例ノ基礎タル原則

右原則ハ管ニ正文國際條約ノ外文明國ノ間ニ確定セル慣習人道ノ法及公共良心ノ要求ヨリ生スル等凡テ國際法ノ一般原則ヲ指スモノトス(千八百九十九年「ヘーグ」條約參照)

第三章 戰爭ノ法規慣例ノ違反行爲

報告ハ一般人民ニ對シテ行ハレタルモノ及戰鬥員ニ對シテ行ハレタルモノ及右兩者ニ關スルモノ、三種ニ分チ二十六種ヲ例證ス其ノ内恐怖政策(テロリズム)追放(デポルテーション)疫症ノ傳染等從來國際法規ニ規定セラレサルモノヲ包含シ居レリ

第四章 戰爭ノ法規慣例ノ違反ヲ裁判スヘキ裁判所

報告ハ前章所定犯罪ノ責任者ハ各交戰國ニ現ニ存シ又ハ持設セラルヘキ當該裁判所ニ於テ審理セラレムコトヲ提議シ犯人カ裁判國ノ俘虜トナリ其ノ他其ノ圈内ニ入りタル場合ニハ原則トシテ國內裁判ヲ認メ左記四種ノ責任者ノ審理ニ就キテハ高等裁判所(國際裁判所)名稱ヲ避ケ殊ニ高等裁判所(Haut Tribunal)ト稱スルコトニ決ス(ノ特設ヲ必要ナリト認ムル旨ヲ規定ス)

(イ) 俘虜收容地其ノ他「コウレン」等ニ於ケル獨逸官憲ノ行爲ノ如キ一時ニ多數ノ聯合國軍人非軍人ニ對シテ罪ヲ犯セル敵國人(?)

(ロ) 聯合國中數國ニ對スル戰鬥行爲ニ關シ命令ヲ發セル敵國官憲

(ハ) 野蠻又ハ暴虐ノ行爲ヲ命シ又ハ之カ制止ヲ爲スニ適當ノ手段ヲ取ラザリシ一切ノ敵國文武官憲但其ノ地位階級ノ如何ニ高キヲ論セス國ノ元首ヲモ含ムモノトス(本條ハ三月六日巴里發電(講和調書其三第九〇頁參照)責任委員會記事中第三分科會立案委員會ノ報告要旨「ハ」ヲ改正シタルモノナリ)

(一) 違反行為又ハ交戦國ノ法律ノ性質ニ鑑ミ高等裁判所以外ノ裁判所ニ引致セサルヲ適當トスル一切ノ敵國人
○高等裁判所ノ組織次ノ如シ

(一) 高等裁判所ハ日、英、米、佛、伊各三名白、希、波蘭、葡萄牙、羅、塞、チエツク、スローヴァツク各二名(？)其ノ現ニ存シ又ハ將來特設セラルヘキ國內裁判所又ハ軍法會議ノ職員中ヨリ任命組織ス

(二) 訴追事實ノ全部又ハ一部カ高等裁判所組織國ノ參戰前ニ遡ルトキハ當該組織國ノ代表裁判官ハ其ノ裁判所ニ列席セサルノ權能ヲ有ス

右ノ場合ニハ裁判官ハ高等裁判官カ當該事件ニ於テ其ノ代理人ヲ任命シ得ルカ爲メ適當ノ時機ニ廻避ノ通告ヲ爲スヲ要ス(本條ハ立案委員會ニ於テ米國側ノ留保ニ依リ新タニ挿入セラレタルモノナリ)(三月六日巴里發電責任委員會記事參照)

(三) 高等裁判所ハ文明國ノ間ニ確定セル慣習人道ノ法及公共良心ノ要求ヨリ生スル等凡テ國際法ノ原則ニ從ヒ裁判ス

(四) 被告有罪確定シタル場合ニハ高等裁判所ハ其ノ組織國ノ一ニ於テ同種ノ罪(？)ニ付科セラルヘキ刑罰ニ處スルノ權ヲ有ス

(五) 訴訟手續ハ高等裁判所之ヲ規定ス

(六) 高等裁判所ニ告訴スルノ權限ハ五大國代表者五名ヨリ成ル追訴委員會(Commission des Poursuites)ニ屬ス右委員會補佐ノ爲其ノ他ノ政府ヨリモ代表者ヲ出スコトヲ得可ク又追訴委員ハ事件カ本國ノ參戰前ニ遡ル場合ニハ廻避シ得ルコト第二ノ場合ニ同シ

(七) 高等裁判所ニ追訴スルカ爲聯合與國ノ權内ニ在ル犯人引渡シノ要求ハ追訴委員會ニ爲ス可シ

(八) 高等裁判所又ハ追訴委員會ニ繫留中ノ犯罪ニ就テハ國內裁判所ハ裁判スルコトヲ得ス但シ敵國裁判所ノ訴

訟又ハ判決ハ何等ノ影響ヲ及サス

第五章ノ次キ(？)

上述ノ理由ニ基キ分科會ハ左ノ提議ヲ爲ス

第一 前章規定ノ高等裁判所ヲ特設スルコト

第二 講和條約中ニ左ノ事項ヲ規定スルコト

(A) 敵國政府ハ講和後ニ於テモ聯合國內裁判所及高等裁判所ノ裁判權ヲ認ムルコト戰爭ノ法規慣例及人道ノ法ニ違反セリト認メラルル敵國人ハ交戦國ノ承認スヘキ大赦ヨリ除外セラル可ク且ツ右犯人所屬國政府ハ裁判ノ爲之カ引渡シヲ約ス可キコト

(B) 敵國政府ハ左ノ書類ノ交付ヲ約ス可キコト

(1) 聯合國ニシテ審理ノ資料上必要ト認メタル敵國ノ軍人非軍人ノ收容陣地其ノ他一切捕虜ノ勞役留置ニ關係アル場所ニ於テ命令其ノ他尠クトモ或程度ノ權力ヲ行使セルモノノ氏名ノ通告及ヒ右ノ場所ニ於ケル一切ノ命令又ハ其ノ寫其ノ他ノ報告書類

(2) 國際ノ法規慣例又ハ人道ノ法ニ違反セル行為其ノ他軍事行動ニ關係アル一切ノ命令其ノ寫シ軍事裁判所其ノ他審判所ノ訴訟書類及各種ノ報告其ノ他ノ書類

(3) 右ノ行為其ノ他軍事行動ヲ遂行シ又ハ之ニ付責任アルモノヲ指摘スルニ足ル可キ一切ノ資料

(4) 潜水艇ノ行動ニ關係アル一切ノ船舶書類海圖報告其ノ他ノ書類

(5) 潜水艇ニ與ヘラレタル一切ノ命令並右潜水艇行動ノ細目及範圍

(6) 戰爭中敵國艦船其ノ乗組員ノ犯セリト認ムヘキ國際ノ法規慣例又ハ人道ノ法ニ違反セル行動ニ關シ聯合國ノ要

求スヘキ一切ノ書類

(C) 聯合國政府ハ最等裁判所ノ運用並其ノ判決ノ實施ヲ確保スルニ必要ナル法制ヲ採用スルコト
 (D) 訴追委員會組織國ハ中立國內ニ在ル犯人ノ引渡シヲ受クルカ爲協同シテ中立國政府ト商議ヲ遂ク可キコト(報告以上)

○米國委員ノ修正意見

イ、右報告第四章ニ付前段四種ノ責任者ヲ規定セル條項(ハ)ニ關シ「ランシング」氏ハ元首ノ文句ハ不必要且不安當ナルヲ以テ削除セムコトヲ提議シタルニ英佛委員ハ立案委員會ノ最初ノ報告(三月六日巴里發電、講和調書其第三九〇頁參照)ニ於テハ前獨帝ト明示セルモ米國ノ主張ヲ納レテ本案ノ如ク概括的ニ規定シタルハ吾等ニ取リテ出來得ル丈クノ讓歩ヲナシタルモノニシテ此ノ上ノ讓歩ヲナスコトヲ得ストノ反對アリ
 ロ、米國委員ハ尙本條ハ制止ヲナスニ適當ノ手段ヲ執ラザリシトモ之丈ケニテハ不充分ニシテ制止シ得ヘカリシ行爲ニ對シ公然同意ヲ表シタルヲ要ス可シトテ新タニ修正ヲ提議セルモ是亦採用セラレス右ノ理由ニ依リ米國ハ本條ヲ留保セリ英國委員ハ本案ハ重要問題ナレハ少時考慮ノ期間ヲ與ヘラレ度キ旨ヲ述ヘテ留保ス

○責任委員會

一、日 時 三月十二日

一、出席者 安達、立

一、內 容

甲、第一及第二分科會報告承認

戰爭責任委員會ハ三個ノ分科會ヲ設ケ二月中旬以降會合ヲ重ネ各分科會ニ於テ報告ヲ作製シタルカ三月十二日總會開催第一分科會ノ報告(三月五日ノ同分科會記事甲參照)及第二分科會ノ報告(講和調書其第三九〇頁三月六日巴里發

電參照)ヲ承認ス

乙、第三分科會ノ報告ニ關スル米國委員ノ新提議

第三分科會ノ報告(同分科會三月八日ノ記事參照)ニ付米國委員「ランシング」カ新提議ヲナシ

(一) 一方ニ於テ報告書第四章ノ(ハ)ヲ削リ別ニ一項ヲ設ケテ國家元首ヲ國際法違反ノ故ヲ以テ裁判所ニ引出スカ如キ前例ナキコトヲ行ハスシテ政治上法律上道德上ヨリ前獨逸皇帝ノ責任ノ範圍ヲ審査スヘキ國際審査委員會ヲ設ケルヲ定ムヘントシ

(二) 他方ニ於テ別ニ一ノ宣言書ヲ發シテ前獨逸皇帝ノ殘忍ナル戰爭ヲ起セル罪ヲ鳴ラサムトス
 米國ノ此提議ハ英佛ノ委員ノ痛ク反對スル所トナレフ

○責任委員會

一、日 時 三月十三日

一、內 容 第三分科會ノ報告ニ關スル件(承前)

(イ) 米國委員ノ更改提議(二月十二日ノ本委員會記事乙參照)

米國委員ハ更ニ其ノ提議ヲ改メ戰爭開始ヲ致セルモノニ關スル刑事的責任ヲ一般ニ審査シ且戰爭中行ハレタル交戰法規違反ニ關スル刑事的責任ノ問題ヲモ審査スヘキ國際審査委員會ヲ設ケムトス

(ロ) 反對

此ノ新提案ニ對シ(脱)兩國ノ委員ハ反對ヲ表セリ

(ハ) 希臘委員ノ折衷案提出

希臘委員「ポリチス」ハ米國ノ主張ト英佛其ノ他多數國ノ主張ヲ調和スルコトヲ試ムル爲前顯(ハ)(三月八日第三分科

會記事中第四章參照)ニ關シテ修正ヲ加ヘ

(一)「國ノ元首ヲモ含ムモノトス」ノ語ヲ削リ「一切ノ敵國文武官憲」トアルヲ「一切ノ敵國文武ノ人物及官憲」ト改メ又國際的ナル高等裁判所ニ於テ所罰シ得サル場合ハ該裁判所カ米國ノ提議セル國際審査委員會ノ報告ニ類セルモノヲ各政府ニ移牒シ各政府ハ之ヲ公ニシテ歴史ノ批判ニ資スヘキ主意ノ規定ヲ第四章中ニ掲クル事ヲ提議セリ

(二) 白耳義委員ノ意見

白耳義委員「ストーンズクマン」ハ第四章(ハ)ニ於テ文武官憲カ交戦法規違反ノ行爲ヲ部下ニ命シタル場合ノミナラス斯ノ如キ行爲ヲ制止スルノ處置ヲ執ラザリシノ故ヲ以テ刑事的責任ヲ負ハスヘキヲ定メタルハ直接ノ事實以外ノ事項ニ對シテ刑事的責任ヲ負ハシメムトスルモノニシテ第三者ヲシテ不當ノ感ヲ懷カシムルニ至リ却テ直接ノ犯行ニ與リシモノカ上長者ノ責任ノ后ニ隱レテ其ノ責任ヲ免ルル處ヲ生スト述ヘタリ

○責任委員會

一、日 時 三月十四日

一、内 容 第三分科會ノ報告ニ關スル件(承前)

(イ) 希臘委員提案採決

○前項第四章(ハ)ノ修正ニ關スル希臘委員「ボリチス」ノ提案中二點ヲ區別シテ採決シ

第一點タル「國ノ元首ヲモ含ムモノトス」ノ語ヲ削リ「一切ノ敵國官憲」ト有ルヲ「一切ノ敵國文武ノ人物及ヒ官憲」ト改メムトスル點ニ關シテ採決セルニ米國委員カ可否ノ數ニ加ハラサル以外ハ全會一致ヲ以テ可決セリ

○次ニ第二ノ點タル單ニ部下ノ交戦法規違反ノ所爲ヲ制止スルノ處置ヲ執ラザリシコトニ對シテ刑事的責任ヲ負ハシムル應セムトスル點ニ關シテ採決セルニ贊成セルモノハ我國白耳義及ヒ希臘ニ過キスシテ米國ハ可否ノ數ニ入ラス茲ニ於テ第二點ノ修正ハ少數ノ爲メ消滅セリ

(ロ) 第四章(ハ)全體ノ採決並(ハ)ニ關スル佛國委員ノ提議

○次ニ第一點ノ修正ヲ經タル部分ト第二點ノ修正ノ成立セザリシ部分トヲ含メル(ハ)全體ニ付キ採決シ米國委員ハ反對シ我國委員ハ(ハ)全體ニ關シテ留保スル旨ヲ言明セリ

○然ルニ佛國委員ハ(ハ)ニ關シテ前回ニ白耳義委員ノ述ヘタル如キ杞憂ヲ絶ツタメニ(ハ)中ニ於テ文武ノ顯要ノ人物官憲カ交戦法規違反ノ行爲ヲ制止セザリシ場合直接ニ交戦法規違反ノ行爲ニ與レルモノニ對シテ有恕ノ理由ヲ與ヘサルコトヲ明カニスル文句ヲ加フルコトヲ提議シ我委員ハ(ハ)全體ヲ留保セルヲ以テ採決ノ際可否ノ數ニ加ハラザリシモ米國委員ノ反對ノ外ハ全會一致ヲ以テ佛國委員ノ提案ヲ可決セリ

(ハ) 米國委員留保

米國委員「スコット」ハ第三分科會報告書第四章及ヒ第五章ニ付キ留保ヲ言明シタリ

○責任委員會

一、日 時 三月十五日

一、内 容 第三分科會ノ報告ニ關スル件(承前)

○米國委員ノ提案

米「ランシング」ハ第三分科會報告書第四章中ニ新タニ一條ヲ設ケ

「高等裁判所ノ裁判官及ヒ訴追委員會ニ於ケル其ノ代表者ヲ出セル諸國ハ其ノ欲スル所ニ從ヒ自己ノ出セル裁判官又ハ代表者ヲ第四章ニ記セル總テノ裁判及ヒ其ノ他ノ手續ニ與ラシムルコトヲ得」

ト定メムトテ提議ノ趣旨カ米國ヲシテ(ハ)ノ認ムル消極的ノ刑事(脱)場合等ノ法律上責任ヲ存セサルヘキ場合ニ付キ裁判ニ與カルコトナカラシメムトスルニ在リト述ヘ報告書中ニ列記セル國際法違反ノ行爲ニシテ現在ノ法律上刑罰ヲ科シ得サルモノ有ルコトヲ附言シタリ

交通委員會

○交通委員會第三次會合

一、日 時 三月四日午後(第一分科會閉會後)

一、内 容 國際河川ニ關スル修正協定案提出並米國委員ノ延期提議
第一分科會第一次會合ノ際指名セラレタル起草委員(英佛白委員ヨリ成ル)ニ於テ第一及第二部會ノ審議ニ基キ作成中ナ
リシ國際河川ニ關スル修正協定案ノ提出アリ其ノ審議ヲ開始スルヤ米國委員ヨリ國際河川ニ關シテモ自由通過問題ト同
様一般的協約ハ講和條約調印後一箇年以内ニ開カルヘキ特別會議ニ譲リ此ノ際ハ特ニ指定スヘキ河川ニ限リ適用スヘキ
協約並講和條約ニ挿入スヘキ條項ノ協定ニ止ムヘントノ動議出テ二三贊否ノ說アリシ後成立セリ
附、

國際河川ニ關スル修正協定案次ノ如シ(但米國委員動議ノ趣旨ニヨリ更ニ修正ヲ加ヘラルル等)

DRAFT CONVENTION RELATING TO INTERNATIONAL RIVERS.

I. WATERWAYS TO WHICH THE PRINCIPLE OF INTERNATIONALIZATION
SHALL BE APPLIED.

ARTICLE 1.

The following shall be considered international:

1. All parts of a waterway or of a river system which naturally provide several states with an outlet to the

sea with or without transshipment from one vessel to another; together with lateral canals and channels built either to duplicate or improve sections of such waterway or river systems which are naturally navigable (or to connect two of the same which are naturally navigable).

2. Waterways, canals or parts of waterways and canals to be referred as such in international convention.

II. FREEDOM OF NAVIGATION.

ARTICLE 2.

In the exercise of navigation nationals and flags of all nations shall be treated in every respect on a footing of perfect equality, no distinction being made between nationals and flags of riparian and non-riparian states and no exclusive right of navigation shall be granted to companies or to private individuals. No restrictions shall be placed on the movement of persons and vessels other than those arising under police regulations or from application of laws and regulations affecting customs, sanitary prescriptions, immigration, emigration and importation of prohibited goods. Such regulations reasonable and uniform shall not unnecessarily impede traffic.

(374)

ARTICLE 3.

All riparian states shall be entitled to prohibit coasting-trade "petit cabotage" in their territories by foreign sea-going or river ships.

III. DUES AND TAXES.

ARTICLE 4.

Taxes varying on different sections of the river may be levied on vessels using navigable channel or its approaches. They are intended solely to cover equitably cost of maintaining in a navigable condition or such improvement of rivers and their approaches or to meet expenditure incurred in the interest of navigation.

Schedule of taxes shall be calculated on the basis of such expenses and shall be posted up in the ports. (Such taxes shall be levied in such manner as to render any detailed examination of cargo unnecessary except in cases to suspect fraud or contravention).

ARTICLE 5.

Transit of vessels, passengers and goods on the water-way or portions of the water-way referred to in Article 1 shall be effected in accordance with conditions laid down by the Convention relating to freedom of transit.

When the two banks of an international river form part of the same state, goods in transit can be placed under seals or in custody of customs agents.

In cases where the river forms a frontier, goods and passenger traffic shall be exempt from all customs formalities.

Loading and unloading of goods, embarkation and disembarkation of passengers shall only take place in ports specified by the riparian state.

(375)

ARTICLE 6.

No dues of any kind other than those stipulated in the present regulations shall be levied along the course or at the mouth of international rivers. This stipulation shall not prevent fixing by the riparian state or customs, local octroi consumption duties, or the creation of reasonable times levied in the ports in accordance with public tariff for the use of cranes, elevators, quays, warehouses etc.

IV. WORKS.

ARTICLE 7.

In default of any special organisation for carrying out works connected with up-keep and improvement of the international portion of a navigable system, each riparian state shall be obliged to take suitable measures in order to remove any obstacle or danger to navigation and insure maintenance of good condition of navigation.

(Should any state neglect to comply with this obligation any riparian state may appeal to the tribunal instituted for this purpose in connection with the League of Nations.)

ARTICLE 8.

The same procedure shall be adopted in the case of a riparian state undertaking any works capable of impeding navigation over any international section, the tribunal (mentioned in the preceding article), as arranged below, shall be entitled to demand suspension, abandonment or abolition of said works, making due allowance in its decision for all rights in connection with irrigation, water powers, fishery, any other national interests (which, in the event of agreement being arrived at by all riparian states shall be given priority over the requirement of navigation.)

Appeal to the tribunal of the League of Nations shall not be suspended.

V. ADMINISTRATION OF INTERNATIONAL RIVERS.

ARTICLE 9.

Administration of a water-way or a section thereof to which internationalization is applicable shall be guaranteed and navigation on this section shall be regulated:—

- (a) either by each riparian state in full sovereignty over the whole extent of its own territory, provided that stipulations of the present Convention are observed;
- (b) or subject to fixed conditions by agreement between the riparian states with the same proviso;
- (c) or in virtue of special Convention by an international Commission, the composition and duties of which shall be fixed according to particular conditions of each system by the regulations applicable to that system and which may be composed in proportion to their respective interests of either exclusive delegates of all the riparian states or also of delegates of the states interested.

In the event of violation of any of the provisions of the present convention, any interested state may appeal to the tribunal instituted for this purpose in connection with the League of Nations and may demand that an international commission should be constituted.

ARTICLE 10.

In the event of an international commission being formed, it shall be considered as peremptory authority, acting

entirely independent of the territorial authorities and may possess the following powers:—

- (1) That of specifying and causing to be carried out measures indispensable for its up-keep of works and for its improvement and development of the navigability of the river in cases where such measures have not been carried out by the riparian states themselves;
- (2) That of fixing and applying schedules of taxes;
- (3) That of drawing up river police regulations which as far as circumstances may permit shall be uniform throughout the whole course of the river;
- (4) That of superintending strict observance of the regulations;
- (5) That of appointing the inspector-in-chief of navigation who shall exercise authority on behalf of the commission over the whole course of the river and over vessels of all nations;
- (6) That of sanctioning appointment of local inspectors of navigation nominated by the riparian states.

(378)

ARTICLE 11.

In the event of an international commission existing and of no provisions to the contrary appearing in any special convention each riparian state shall be entitled to carry out itself any measures which it may consider suitable on sections of the international system over which it exercises sovereignty with a view to insuring up-keep and improvement of river traffic.

No addition to existing taxes shall be made by reason of above mentioned measures, except in respect of facilities given in local parts, if such expense has not been previously approved by the commission.

VI. NAVIGATION POLICE.

ARTICLE 12.

Riparian states shall retain their rights of sovereignty over those parts of a river which flows through their territory, sole restrictions being those arising out of the present regulations.

They shall appoint local navigation inspectors for such river sections within their territory and shall cause police regulations drawn up by the commission to be carried out.

ARTICLE 13.

Should an international commission exist it may be stipulated that offence against the navigation regulations drawn up by the international commission shall be judged in the first instance or finally, according to the amount of fine fixed by such regulations by the local navigation inspector. When appeal is allowed, it shall be brought before the competent tribunal of the riparian state in question.

In that event, such riparian state undertakes to submit its legislative measures for fixing uniform penalty and for nominating the appeal tribunal which shall deal with all offences committed within their jurisdiction.

ARTICLE 14.

Disputes of civil or commercial nature which may arise in connection with navigation shall, at the option of the plaintiff, be brought either before a court of defendant's place of domicile or before a court of the district in which occurrence giving rise to dispute shall have taken place. Dispute shall be judged according to the national law of the Court decided upon, and the practice shall be that applicable under such law.

ARTICLE 15.

Disputes arising between riparian or non-riparian states respecting applicable of this convention shall in the first instance be brought before the international commission, if any.

Should no such international commission exist or should findings of such commission not be accepted by one of the states concerned, the matter shall be settled in conformity with provisions of the League of Nations.

ARTICLE 16.

Provisions of the present convention shall in no way affect rights or duties of neutrals or belligerents in time of war.

ARTICLE 17.

Should any state refuse to comply with findings of the tribunal appointed by League of Nations such state shall cease to have the benefit of all provisions of the present convention respecting freedom of transit.

○交通委員會第四次會合

一、日 時 三月八日午前

一、内 容 自由通過協定案討議

第一分科會第六次會合ニ於ケル審議ニ基キ修正セラレタル自由通過協定案ニ付討議ヲ繼續シタルカ第二條適用區域ニ關スル規定(第一項ヲ「本協約ヲ適用スル地域ハ千九百十四年八月一日ヨリ講和條約調印ニ至ル迄ノ間ニ聯合側諸國ニ依リ承認セラレタル新國家ノ領土及ヒ講和條約ニ依リ敵國ヨリ分離シタル領土」ト改メタルモノ)ニ付復又議論百出容易

ニ意見ノ一致ヲ見ス結局右協定案ノ審議ハ後廻シトナシ次回ハ講和條約ニ挿入スヘキ自由通過國際河川及ヒ國際鐵道ニ關スル條項ヲ議スルコトト成レリ

○交通委員會第五次會合

一、日 時 三月九日午前

一、内 容

甲、講和條約ニ挿入スヘキ鐵道條項案

鐵道問題ニ關シ講和條約ニ挿入スヘキ條項案ノ討議終リ其ノ結果ニ基キ修正案ノ起草方ヲ書記ニ命シタルカ右條項ノ要領左ノ如シ

- (一) 聯合側諸國ヨリ敵國ニ至リ又ハ敵國領土ヲ通過スル貨物ハ運賃ニ關スル最有利ナル取扱ヲ受クヘキコト
- (二) 前項ノ貨物ハ敵國々境ニ於ケル積換及其ノ國境內ノ輸送ニ關シ殊ニ輸送ノ速度及途中ノ注意ニ關シ敵國內輸送ノ同種貨物ト均等ノ便宜ヲ受クヘキコト
- (三) 國際運輸ニ關スル千八百九十八年「ベルン」條約ノ規定ハ講和條約ノ批准後直ニ敵國ニ適用セラルヘキコト
- (四) 敵國ハ其ノ領土ヲ通過スル旅客ノ爲聯合側諸國ノ指定ニ從ヒ直通運輸ヲ開設シ且其運賃ハ內國輸送ノ場合ト同等以下ナルヘキコト
- (五) 聯合國側諸國ヨリ敵國ノ鐵道ニ依リ敵國ニ往復スル移民ノ運賃ハ敵國ヨリ移民ヲ輸送スル場合ノ運賃等ト同等ナルヘキコト

(六) 聯合側諸國カ其ノ相互間又ハ其他ノ國トノ間ニ直通運輸開設ノ爲敵國內ニ於テ鐵道線路ノ敷設若ハ同意ヲ要求

- スル時ハ敵國ニ於テ之ニ應諾スヘキコト但右建設費ハ請求國ノ負擔トス
- (七) 聯合側諸國ノ貨物列車ト敵國ノ貨物列車トノ制動機ノ繼續の使用 (Continuous use of brakes) ノ爲聯合國側ニ於テ採用スヘキ方式ハ敵國ニ於テモ之ヲ採用スヘキコト
- (八) 聯合側諸國ノ競争線ヨリ貨物ヲ吸收スル目的ヲ以テ敵國ニ於テ其ノ境界線路ニ特定運賃等ヲ設クルコトヲ禁止スルコト

右條項案ハ兩日中ニ總委員會ニ於テ最終ノ採決ニ附セララルル筈ノ處其ノ各條項ハ各國委員共別ニ異議ナク我國ニトリテモ差支ナキモノト認メラル

乙、國際鐵道ニ關スル佛國提案

前顯講和條約ニ挿入スヘキ鐵道約款ノ外國國際鐵道ニ關シ佛國委員ヨリ別ニ協約案ヲ提出アリ第二章十八條ニ分チ第一章ニハ通則ヲ掲ケ第二章ニハ國際鐵道ニ關スル規定ヲ掲ク我委員ニ於テ重ナル他國委員ノ意向ヲ探リタルニ右通則ニ對シテハ格別ニ意見ナキ模様ナルモ第二章(國際鐵道トハ國際條約ヲ以テ特ニ國際鐵道ト指定シタルモノヲ指スト定メ更ニ之ヲ分チテ Regime of Transit ノ下ニ在ル鐵道ト International Administration ノ下ニ在ル鐵道ト二種トナシ各別ニ其ノ規定ヲ設ク)ニ關シテハ隨分意見ノ相違アルモノノ如ク容易ニ纏ラサルコトト想像セララルルモ不日議事ニ上ルヘシ第一章及第二章ノ主條(一)ノ譯文次ノ如シ

○鐵道ニ關スル國際制度

第一款 國際鐵道輸送ニ關スル一般の制度

單一貨物引換
附貨物ノ國
際輸送

第一條 國際聯盟ヲ構成スル各國ハ單一貨物引換證附ノ貨物ノ輸送ノ各自ノ版圖内ノ一般輸送ヲ取扱フ線路上ノ二停車場間ニ於テ取扱フヘキコトヲ約ス但シ右輸送ハ出發點ヨリ終點迄同一會社ノ手ニ依リ

旅客及手荷物
ノ國際輸送

混合通シ輸送

貨金ノ均等

國際事務局ノ
設置

(一) 國際諸協
定及其變更
ノ立案

(二) 加入鐵道
及船會社ノ
變更及故障
ノ通知

(三) 紛争ノ鎮
撫解決

作業及施設ニ
要スル費用ノ
分配

行ヒ得ル場合タルヲ要ス

輸送ノ條件ハ特別協定ニ於テ之ヲ定ムヘシ

又特別協定ヲ以テ各鐵道上ノ交通ノ量ニ比例スル程度ノ速力及慰安ノ下ニ前記鐵道ニ依リ旅客及手荷物ノ國際輸送ヲ爲スコトヲ保障スルニ必要ナル手段ニ付規定スヘキモノトス

又特別協定ヲ以テ少シトモ混合通シ輸送ニ加入セルモノトシテ各國ニ於テ指定スル船會社ノ一ニ依リ行ハルル海上輸送及一又ハ一以上ノ區域ノ鐵道輸送ヲ包含スル道程ヲ單一ナル運送契約ノ下ニ貨物旅客及手荷物ヲ輸送スルノ條件ニ關シ規定スヘキモノトス

此等協定ニ於テハ同一ノ條件ノ下ニ同一距離ヲ輸送セララルル貨物及旅客ノ貨金ニ關シテ國籍ノ如何ヲ問ハス絶對ニ均等ナルノ規定ヲ設クヘキモノトス從テ一國ノ立法部ノ協賛セル特別條約ヨリ生スル便宜ハ其ノ條件ヲ充タス總テノ者ニ於テ之ヲ享有シ得ルモノトス

第二條 國際聯盟ノ共同國際的機關ノ一トシテ左ノ目的ヲ有スル國際事務局ヲ設置スヘシ

(一) 前條ニ規定スル國際諸協定及經驗上必要ト認メララルルニ至ルヘキ該諸協定變更ニ關シ立案スルコト

(二) 總テノ加入國ニ右協定ノ關係アル鐵道又ハ船會社表ノ變更及右鐵道及航路上ノ輸送ヲ一時妨クル故障ニ關シ通告スルコト

(三) 當該協定ノ適用ニ關シ關係管理團ノ間ニ生スルコトアルヘキ紛争ヲ鎮撫シ又解決スルコト

第三條 或一國カ其ノ版圖内ニ於テ國際輸送ノ圓滑ナル運行ヲ確保スル爲ニ作業ヲ施行シ又ハ必要ナル手段ヲ採ルヲ要セサルコトヲ其ノ費用カ右輸送ヨリ生スル便益ニ比シ不均衡ナリトノ理由ヨリ主張ス

ル場合ニハ國際事務局ハ關係國ノ何レカノ一國ノ請求ニ由リ關係國間ニ右費用ノ公平ナル分配ヲ定メ且右公平ナル分配ノ行ハルルコトヲ確保スルノ手段ヲ講スヘキモノトス
若シ他ノ關係國ニ於テ右作業ニ依リ生スル損害ノ賠償ヲ包含スル全費用ノ負擔ニ任スル場合ニハ如何ナル國ト雖當該作業及施設ノ實行ヲ拒ムコトヲ得ス
若シ一國ニシテ此ノ義務ニ服從スルコトヲ拒ムトキハ國際聯盟ノ憲法ニ規定スル方法ニ依リ手續ヲ採ルモノトス

第二款 國際鐵道

國際鐵道

第四條 國際協約又ハ條約中國際鐵道ト稱スル鐵道ハ總テ國際鐵道ト思惟スヘキモノトス

或鐵道ニ右ノ性質ヲ付與スル條約書ニ於テ右鐵道カ國際管理鐵道ニ編入セラルヘキヤ否ヤヲ決スヘキモノトス

○交通委員會第六次會合

一、日 時 三月十日

一、内 容

甲、講和條約ニ挿入スヘキ河川約款審議

河川ニ關シ講和條約中ニ挿入スヘキ約款(佛國提案)ヲ審議ノ末可決シ文言ノ整理ヲ起草委員ニ附托セリ其ノ要領左ノ如シ

(一) 獨國ニ於テ「ライン」河ニ關スル一八六八年十月十七日ノ條約改訂ノ提議ニ應スヘキコト(右改訂ノ眼中ニハ同河航行ノ自由ヲ從來ノ如ク沿岸諸國ニ限ラス各國ニ之レヲ許スコトヲ含ム)

(二) 「ライン」河國際委員會ヲ設ケ其ノ本部ヲ「ストラスブルグ」ニ置キ委員長ハ佛國ヨリ出シ委員ハ佛獨各五名並ニ

白、英、米、蘭、伊、瑞西各一名トスルコト(米國委員ハ本件委員ヲ出スヤ否ヤノ決定ヲ留保セリ又蘭、瑞西兩國ニ對シテハ五國會議ニ於テ決定次第佛國外相ヨリ通牒ノ筈)

(三) 獨國政府及獨逸人カ「ライン」河ニ於テ有スル船舶及曳船總數ノ約三分ノ一並ニ其ノ「ロットルダム」ニ於テ有スル施設ノ約三分ノ一ヲ佛國ニ讓渡スヘキコト但シ右評價格ハ獨逸ヨリ佛國ニ支拂フヘキ賠償金額中ヨリ控除スルモノトス

(四) 佛國ハ「ライン」河ヨリ其ノ附近ノ運河ニ必要ナル水ヲ引クノ權右引水ニ必要ナル工事及堰ノ設置ニ必要ナル工事ヲ同河右岸ニ施スノ權並同河ニ對スル水力利用ノ權ヲ留保スルコト

(五) 獨國ハ「ライン」河國際委員會ノ同意ナクシテ同河右岸ニ工事ヲ施スヘカラサルコト

(六) 佛國政府ニ於テ「ライン」河ト「ムーズ」河トヲ連絡スル約三十八基米ノ運河建設ヲ要求スル時ハ獨國政府ハ之レヲ應諾スヘキコト但シ右建設費ノ分擔ハ「ライン」河國際委員會ニ於テ之レヲ決定ス

備考

右河川約款ハ不日委員會ニ於テ最終採決ニ附セラルル筈ニシテ各國委員ニ於テ異議ナク我國ニ取リテモ支障ナ

シト認メラル

乙、獨逸諸河川ヲ國際河川トスルノ提議

又英國委員ハ「ライン」「エルベ」「オーデル」「ビスチユラ」「ダニユープ」ノ五河川及「ライン」「ダニユープ」運河ヲ國際河川ト指定シ國際委員會ヲ設置セムコトヲ提議シタルモ異論アリテ成立セス結局此際ハ只是等ノ河川ニ對シ敵國側ニ要求スヘキ事項ノミヲ商議決定スルコトトナレリ

丙、「キール」運河問題

三月六日五國會議ノ決議ニ基キ「キール」運河問題ハ本委員會ニ附托セラレタルニ付日、英、米、伊、佛五國委員ヨリ

成ル特別委員會ニ於テ審議ノコトニ決ス

○「キール」運河委員會

○「キール」運河ニ關スル講和條款案作成

三月十日第六次交通委員會ノ決議ニ基キ三月十一日午前五國專門委員ノ會合ヲ開キ日本ヨリハ佐藤大佐出席「キール」運河ニ關シ講和條約ニ挿入スヘキ條款ニ付英佛兩案ヲ對照審議ノ末合シテ一案ヲ作製シ五國委員ノミノ出席セル特別會議ニ於テ正式ニ可決ノ上同日午後交通委員會議長「クレスビー」氏ヨリ五國會議々長ニ之ヲ報告シタリ右條款ハ同運河カ完全ニ獨逸ノ領域トシテ存在スル場合ヲ假定シ且追テ規定セラルルコトアルヘキ軍事上ノ補償問題ヲ左右スルモノニ非サルコトヲ前提トス其ノ要旨左ノ如シ

「キール」運河ハ獨逸國主權ノ下ニ存留ス但同河及其ノ兩端通路(アブローチエス)ハ將來水路國際制度問題ニ關シ設ケラル可キ規定殊ニ獨逸ト平和關係ニアル諸國ノ臣民財產及船舶ノ航行ノ自由ニ關スル規定ノ適用ヲ受クヘク此點ニ付テハ之等諸國ト獨逸トノ間ニ何等ノ差別ヲモ設クヘカラサルモノトス右規定ハ獨逸商船ノミナラス軍艦ニモ均シク適用セラルヘシ

○交通委員會第七次會合

一、日 時 三月十三日午前

一、内 容 講和條約ニ挿入スヘキ河川約款案討議

○「マンハイム」條約變更ノ件ニ付英國委員ノ提議

講和條約ニ挿入スヘキ河川約款案(第六次會合記事參照)修正濟ノ分ヲ第二讀會ニ附シタルカ千八百六十八年十月七日「マンハイム」條約ハ右約款ニ規定スル變更ヲ加ヘ講和豫備條約調印ノ日ヨリ「ライン」河ノ航行ニ適用セラルヘシト

ノ規定ニ付英國委員ヨリ數箇條ノ規定追加方ヲ提議シ佛國委員ニ於テ反對シタル爲議論百出ノ末英國側ヨリ追加條項ヲ提出スルコトニ決ス

○交通委員會第八次會合

一、日 時 三月十三日午後

一、内 容 講和條約ニ挿入スヘキ河川約款案討議

○「ライン」河國際委員會代表權問題

「ライン」河國際委員會關係國代表權能(第六次會合記事參照)ニ關シ米國委員カ參加拒絕ノ結果英米二國委員等佛國代表權ニ對シ異議出テ容易ニ纏マラス結局米國ニ於テ再考ヲ求ムルト共ニ代表數ノ振當ハ更ニ審議スルコト、ナリ猶ホ其ノ他ノ條項ニモ多少ノ修正アリタリ

○交通委員會第九次會合

一、日 時 三月十五日午前

一、内 容 講和條約ニ挿入スヘキ河川約款案討議

(イ)「マンハイム」條約ニ關スル件(十三日午前ノ第七次會合參照)

講和條約河川約款案ト「マンハイム」協約並國際河川ニ關スル一般的協約トノ關係ノ規定ニ付英國委員ヨリ異議ヲ唱ヘタル爲議論沸騰シ遂ニ左ノ趣旨ニテ纏マレリ

「講和豫備條約調印ノ日ヨリ「マンハイム」協約及其ノ追加議定書ハ本約款ニ規定スル變更ヲ加ヘ引續キ「ライン」河航行ノ準則タルヘシ但協約ノ規定カ國際河川ノ質ヲ認メラルヘキ河川ノ制度ニ關スル一的協約ノ規定ト抵觸スル場合ニ

後者ニ依ルモノトス尙ホ「ライン」河ハ右一般協約中ニ合マルヘシ
 (ロ) 「ライン」河國際委員會構成(十三日午後ノ第八次會合參照)
 本問題ニ關シ又々盛ニ論議セラレタルカ英米委員ハ佛獨ノ代表數合計ヲシテ他ノ諸國ノ代表數合計ヨリ少カラシメ以
 テ他日佛獨代表者ノ專斷ヲ制セムトノ底意アルヤニ察セラレタリ

○交通委員會第十次會合

一、日 時 三月十五日午後
 一、內 容

(イ) 午前ノ續
 議長ハ先以テ普佛兩國委員間ノ妥協ヲ計リタル爲メ途ニ兩者ノ折合着キ結局
 獨 各四票
 佛
 外ニ佛國人議長投票權ニ

白 蘭 瑞 英 伊
 各一票

ト定メ米國ハ參加セサルコトトナリ本約款案ハ第二讀會ヲ了レリ

尙米國委員ノ提議ニ基キ本約款ニ付テハ五國會議ヘノ報告ニ先立テ瑞典國代表者ノ意見ヲ聽取スルコトニ決ス
 (ロ) 講和條約ニ挿入スヘキ鐵道條項案(第五次交通委員會參照)
 該案ヲ第二讀會ニ附シ其ノ大半ヲ議了セリ

○交通委員會第一分科會第四次會合

一、日 時 三月一日午後
 一、內 容 修正協約案討議
 二月二十四日ノ第三次會合ニ於テ自由通過協定案ヲ附託セラレ起草委員會ヨリノ提出ニ係ル修正協約案ニ付意見ノ交換
 ヲ行ヒタリ

○交通委員會第一分科會第五次會合

一、日 時 三月三日午後
 一、內 容 英米委員ノ別案提出
 前回ニ引續キ修正協約案ノ討議ヲ開始シタルカ米國委員ヨリ議事日程變更ノ動議ヲ提出シ豫メ英米委員間ニ於テ作製セ
 ル前案ノ討議ヲ要求セリ右前案ハ此際不取敢講和條約ニ挿入スヘキ自由通過ノ條項ヲ協定シ一般協定ハ講和條約調印
 後一箇年以内ニ召集セラルヘキ特別會議ニ讓ラムトスルモノナリ
 右會議ニ基キ次回ノ會議ニ於テ討議ノ筈

○交通委員會第一分科會第六次會合

一、日 時 三月四日午後

一、内 容

前回ニ於テ英米委員ヨリ提出セル左記自由通過協定案並講和協約ニ挿入スヘキ條項案ノ審議ヲ初メタルカ右協定案ヲ適用スヘキ地域(第二條)ニ關シ意見一致セス次回ノ會議ニ於テ討議ヲ繼續スルコトナレリ

○國內自由通過ニ關スル協約

第一條 締約國ハ均等ノ條件ヲ以テ國內通過自由ノ原則ヲ採用シタルヲ以テ各自ノ版圖内ニ於テ此ノ主義ヲ實行スルノ一般的了解ニ到達スル爲講和條約ノ批准後一年以内ニ國際聯盟ニ依リ召集セラルヘキ特別會議ヲ開催スヘキコトヲ約定ス

右ニ至ル迄ノ間締約國ハ次條ニ記載スル地域(爾後本協約ヲ適用スル地域ト稱ス)ニ關シ一九二〇年一月一日ヨリ其ノ效力ヲ生スヘキ次ノ諸條ヲ協定セリ

第二條 本協約ヲ適用スル地域ハ講和條約ニ依リ行政權ヲ移轉ヲ見タル地域並講和條約ニ依リ承認セラレタル國家ニシテ其ノ全部又ハ一部カ戰前ニ於テ露西亞帝國ノ一部分ヲ構成シタル地域ヨリ成立セル國家トス

其ノ版圖ニ本協約ノ適用アル國家ハ本協約ノ目的上締約國ト同一ノ基礎ノ下ニ待遇セラルヘシ

第三條 締約國ノ版圖ニ向ヒ又ハ締約國ノ版圖ヨリ來ル人貨物又ハ運輸機關ヲシテ鐵道航行シ得ヘキ水路又ハ運河ノ何レニ依ルヲ問ハス差當リ國際輸送ニ最便宜ナル通路ニ依リ本協約ヲ適用スル地域ノ上ヲ自由ニ通過スルヲ許容スハク又前記ノ目的ノ爲ニ領海ヲ通過スルコトヲ許容スヘシ

本協約ヲ適用スル地域ト海洋トノ間ニ位スル締約國ノ版圖ヲ通過シテ本協約ヲ適用スル地域ニ向ヒ又ハ本協約ヲ適用スル地域ヨリ來ル人貨物及運輸機關ニ對シ同様ノ自由通過ノ權利ヲ許容スヘシ

第四條 前記ノ人貨物及輸送機關ニ對シテ單ニ通過ノミノ理由ニ依リ課稅ヲナスコトヲ得ス

第五條 一般警察上及國家ノ安寧上必要ナル制限ヲ除クノ外前記ノ人貨物及運輸機關ハ不當ニ停滯セラルルコトナカルヘク又通過國人ノ貨物及運輸機關ニ對シ均シク付セラルルコトナキ何等ノ制限ヲ付セラルルコトナカルヘシ

第六條 通過輸送ニ關スル總テノ課金又ハ支拂金ハ運輸ノ狀況ヲ考量シ相當ナルヲ要シ且總テノ締約國ノ人貨物及運輸機關ニ對シ同一ナルヘシ

全行程ノ或部分ニ於テ既ニ輸送用ニ供シ又ハ將來輸送用ニ供スヘキ船舶其ノ他ノ交通機關ノ國籍又ハ所有者ノ如何ニ依リ直接又ハ間接ニ何等ノ課稅便益又ハ制限ヲ設クルコトナカルヘシ

第七條 本協約ノ規定ハ戰時ニ於ケル交戰國及中立國ノ權利義務ニ何等影響ヲ及ホスコトナク又國際聯盟ノ一員トシテノ義務ニ抵觸スル何等ノ義務ヲ締約國ニ負ハシムルコトナシ

締約國ハ本協約ノ規定ニ依リ其ノ版圖内ニ入ルコトヲ禁止セラレタル旅客又ハ公衆ノ衛生上若ハ風俗上ノ理由ニ依リ又ハ動植物病豫防ノ目的ヲ以テ其ノ輸入ヲ禁止セラレタル貨物ノ通過ヲ許容スルノ義務ヲ負フコトナシ

各締約國ハ密輸入ヲ豫防シ旅客及貨物ノ善意ニテ通過スルモノナルコトヲ確保シ及水路其ノ他ノ交通機關ノ安全ニ對スル危險ヲ避クル爲相當ノ豫防手段ヲ執ルノ權利ヲ有スヘシ

第八條 國際鐵道又ハ國際水路上ノ通過ニ關シ生スル問題ハ此等ノ交通路ヲ支配スル協約ノ規定ニ從ヒ解決セラルヘシ實際ノモノトナラサル交通路上ノ通過ニ關スル問題ハ國際聯盟ニ依リ最後ニ決定セラルル方法ニ依リ解決セラルヘシ

○講和條約中ニ挿入セラルヘキ條款

中歐諸國ハ其ノ全版圖ニ互リ相互主義ニ依ルコトナク本條約ニ添付セル通過自由ニ關スル協約寫ニ規定スル總テノ通過ノ權利ヲ聯合諸國中ノ何レカノ一國ノ版圖ヨリ又ハ前記協約ノ適用アル地域ヨリ來ル人貨物船舶其ノ他ノ運輸機關ニ對シ其

ノ原産地又ハ國籍ノ如何ニ拘ラス許與スヘキコト並右ノ通過ニ關シ前記協約ニ規定スル總テノ義務及條件ヲ履行スヘキコトヲ約定ス

中歐諸國ハ何レノ地域ヨリ來ルヲ問ハス其ノ版圖内ヲ通過スル通過運輸ニ對シテハ衛生上ノ目的ノ爲及旅客カ實際ニ通過スルモノナルコトヲ確ムル爲ニ必要ナル手段ノ外取締ヲ設ケ又ハ之ヲ持續セサルヘキコト並汽船會社其ノ他ノ私團體法人又ハ個人ヲシテ前記ノ目的上必要ナルヘキ行政事務ニ干與セシメ又ハ之ニ對シ直接又ハ間接ニ勢力ヲ行使スルコトヲ許容セサルヘキコトヲ更ニ約定ス

前記ノ義務ハ講和條約ノ批准ト共ニ直ニ其ノ效力ヲ生スルモノトス

○交通委員會第二分科會第三次會合

一、日 時 三月一日午前

一、内 容 佛國ノ國際港ニ關スル協約案提出

英國委員ヨリ豫テ國際協定ニ依リ設置セラハル自由港ニ適用スヘキ協定案ノ提出アリ未タ討議ニ入ラザリシカ之ニ對シ佛國委員ヨリ左記國際港ニ關スル協約案ヲ提出シ結局佛國案ヲ基礎トシテ討議スルコトニ決ス

DRAFT CONVENTION RELATING TO INTERNATIONAL PORTS.

I. PORTS TO WHICH AN INTERNATIONAL REGIME APPLIES.

ARTICLE 1.

Ports with free zones shall be considered as international ports when specified as such in International Conventions or Treaties or in decision of the League of Nations.

II. LIBERTY OF NAVIGATION.

ARTICLE 2.

In an international port, nationals and flags of all nations shall be treated in all respects on a footing of complete equality so that no differentiation be made between nationals and flags of various countries and those of the country in which the international port is situated, and no exclusive privileges in the matter of navigation shall be accorded to companies or to individuals. No other restrictions shall be imposed on the movement of persons and vessels than those resulting from regulations concerning police, customs, sanitary measures, emigration and immigration and importation of prohibited goods.

ARTICLE 3.

The country in which an international port is situated, may prohibit coasting-trade between this port and other ports of its territory. This shall not extend to the parts of the international port, which shall be declared "free."

III. DUTIES AND CHARGES.

ARTICLE 4.

Duties, tolls or dues, varying according to origin or destination of ships, nature, origin and destination (distinction?) of cargoes and operations carried out by ships during their stay in the port, may be levied on vessels using the international port or the approaches thereto.

They are to be devoted solely to cover the expenses of the administration, up-keep and improvement of the port and of the approaches thereto or to defray a part of the expenses, incurred in the ingoing (?) navigation. The schedule of

such duties, tolls and dues shall be calculated on the basis of these expenses and shall be posted up (published) in the port.

Taxes may also be levied in the port, in accordance with the published schedule, for the use of the crane, weighing machine, elevator, quay, warehouse etc.

ARTICLE 5.

Sanitary taxes and charges for services rendered, such as pilotage, shall be reasonable, having regard to those prevailing in other parts of the same country.

ARTICLE 6.

Customs duties, local octrois, dues or consumption-taxes may be levied in such parts of the port, as are not declared free by the country, in whose territory the port is situated.

IV. WORKS.

ARTICLE 7.

In the absence of any special arrangement for the execution of works for maintaining and improving the international port, it should be duty of the territorial state to take suitable measures to secure facility of movement of ships in the port.

If the territorial state fail to carry out this obligation, any interested state may appeal to the tribunal set up for that purpose by the League of Nations and may demand that an international commission be set up for the purpose of carrying out the necessary works in lieu of the defaulting state, of obtaining funds necessary and levying the necessary taxes.

ARTICLE 8.

The same procedure shall be followed in the event of the territorial state's undertaking the works of such a detrimental nature as to affect usefulness of the international port. The tribunal, referred to in the preceding article, may order that the works be suspended or abandoned, due regard being had in its decision to the legitimate interests of the territorial state.

Putting in of an appeal to this tribunal, shall not however be suspended.

V. FREE ZONES.

ARTICLE 9.

An international port or certain specified parts of an international port may be declared free.

ARTICLE 10.

All goods allowed to be consumed in the free zone shall be free from duty whether of exercise or of any other description, apart from the statistic duty provided for in Art. 11. It shall be within discretion of the territorial power to permit or to prohibit manufacture within the free zone. There shall be no discrimination in regard to any of the provisions of the present article either between goods of different origin or destination.

ARTICLE 11.

No duties or taxes other than those provided for in Arts. 4 and 5 shall be levied on goods arriving at the free zone or departing therefrom, other than the statistic duty which shall not exceed 1 per mil ad valorem. Proceeds of this statistic duty shall be devoted exclusively to the maintenance of the statistic service dealing with statistics rela-

ting to trade and shipping of the free zone.

ARTICLE 12.

Import duty may be levied on goods leaving the free zone for consumption in the country in which the port is situated. Conversely export duty may be levied on goods originating in such country and brought into the free zone.

Import and export duties shall be levied on the basis and at the same rates as similar duties levied at other customs barriers in the country concerned. On the other hand, the territorial state shall not levy and import, export or transit duties or other duties whatsoever on goods carried across its territory by land or water from or to the free zone and to or from any other state.

The territorial state shall draw up necessary regulations to secure and guarantee such free transit at least over all railways and water-ways in its territory giving access to the free zone.

ARTICLE 13.

Duties may be levied on ships using the free zone but they shall be reasonable and shall be devoted exclusively to the up-keep, improvement and administration of the free zone. Nevertheless in suitable cases reasonable proportion of such duties may be devoted to up-keep and development of approaches to the free zone.

VI. ADMINISTRATION OF INTERNATIONAL PORTS.

ARTICLE 14.

Administration of an international port or any part of the free zone of port is provided for—

(a) Either under conditions laid down by agreement between the country in whose territory the port is situated

and the country or countries served by the port;

(b) Or by an International Commission, the composition and duties of which are fixed according to conditions special to each port by the regulations applicable to that port, and which may include, in proportion to their respective interests, either only delegates of the countries served by the port or in addition delegates of interested countries.

ARTICLE 15.

The International Commission where one is set up shall be permanent authority completely independent of the territorial authorities and may have following functions:—

(1) to specify and have to carry out works necessary to improve and develop installations in the port, in case where the works are not carried out by the territorial state itself;

(2) to fix and put into force schedule of changes;

(3) to draw up port police regulations;

(4) to supervise the carrying out of works and to insure strict compliance with regulations;

(5) to appoint director of port who shall exercise his authority in the name of commission and navigation inspectors.

VII. POLICING OF THE PORT.

ARTICLE 16.

Cases of the infringement of port regulations shall be dealt with, in accordance with the laws of the territorial state. Should an international commission exist, however, cases of the infringement shall be dealt with, either in the

first instance or definitively, according to the amount of the fine, fixed by the regulations, by the inspector appointed by the commission or by the tribunal set up by the commission. All appeals, if allowed, shall be made to the competent tribunal of the territorial state.

ARTICLE 17.

All difficulties of civil or commercial character, which may arise by reason of the utilization of the port, shall be settled in accordance with the laws and the regulations of the territorial states.

ARTICLE 18.

All difficulties, which arise between the interested states, with regard to the utilization of the port and application of navigation and police regulations thereof, shall in the first place be brought before the international commission, if any. If no international commission exists or in cases where such a commission's decision is not accepted by any state, the matter shall be settled, in accordance with conditions to be subsequently laid down by the League of Nations.

ARTICLE 19.

The provisions of the present convention shall, in no way, affect rights and duties of the neutrals or belligerents in time of war.

○交通委員會第二分科會第四次會合

一、日 時 三月三日

一、内 容 前回ニ引續キ國際港ニ關スル協定案第一條ヲ審議セリ

○交通委員會第二分科會第五次會合

一、日 時 三月四日午前

一、内 容 國際港協定案審議

○交通委員會第二分科會第六次會合

一、日 時 三月六日

一、内 容 國際港協定案審議了

○國際港ニ關スル協定案ノ審議ヲ終リ英佛白委員ヨリ成ル起草委員ヲシテ右審議ノ結果ニ基キ辭句ノ修正ヲ行ハシメタル上委員會總會ニ提出スルコトナレリ

○國際港協定案修正ノ主要ナル點左ノ如シ

イ、第一條ヲ（本協約ニ規定スル國際的の制度ハ講和條約ニ依リ若クハ締約國ノ加盟セル國際條約ニ依リ特ニ指定セラレタル港ニ適用ス）ト改ム

ロ、第十三條全部ヲ削除シ之ニ代フルニ船籍港ニ關スル規定ヲ設ケ海口ヲ有セサル國ニ對シ講和條約ニ依リ指名セラレタル港ヲ以テ其ノ國ノ船籍港ト看做シ得ル便利ヲ與フルコトトス

ハ、第十四條ヲ（國際的の制度ノ下ニ在ル港若クハ其ノ自由區域ノ行政ハ其ノ所在國及當該港ヲ使用スル國ノ間ニ協定セラルヘキ條件ニ依リ之ヲ行フ）ト改ム

ニ、第十五條全部ヲ削除ス

（注意）右審議ノ基礎ト爲シタルハ佛國案ニシテ英國案ニ非ス

財政委員會

○財政委員會分科會

一、日 時 三月一日

一、內 容 國際聯盟財政部ノ權能問題

二月二十八日財政委員會ニ於テ國際聯盟財政部設置ノ必要ヲ決定シタルヲ以テ委員會ハ更ニ右財政部ノ權能ニ關シ所見ヲ交換スル爲本日分科會ヲ開キ英國委員ノ報告及ヒ米國委員ノ覺書ヲ基礎トシ諸研究ノ結果左ノ報告ヲ作成セリ
財政部ノ任務トシテ分科會ノ一致セル意見左ノ如シ（二月二十八日ノ記事英國委員報告第五參照）

（一）、（二）、（四）及（五）ハ英國委員報告中記載ノ（一）、（二）、（四）及（五）原文ヲ其ノ儘採用シ（三）ハ英國案ヲ訂正シ國際聯盟ニ於テ國際財政委員會ノ設置ヲ決定セルトキハ該委員會ヲ指名シ及ヒ聯盟ノ指揮ヲ受ケテ之ヲ監督スト改ム
（六）其他必要ニ應シ國際聯盟ノ授與スル一切ノ權力若ハ權能ヲ行フ

○財政委員會第九次會合

一、日 時 三月五日

一、出席者 森

一、議 長 佛國藏相「クロツツ」

一、內 容 國際聯盟財政部創立問題並新財政委員會ニ關スル論議

イ、佛國藏相ハ舊財政委員會ハ國際聯盟財政部創立案ヲ調査スヘキ筈ナリシ處此處ニ新ナル財政委員會組織セラレ總テ

ノ財政問題ヲ内容ニ入りテ審議スルノ權能ヲ附與セラレタルヲ以テ最早舊財政委員會ニ於テハ調査ノ必要無シ故ニ此ニ於テ新ナル財政委員會ノ内部ノ組織權能ヲ規定スヘシト宣告セルニ對シ

ロ、英國委員ハ本日ノ會合ハ舊財政委員會ノ繼續ナリト諒解シ來タレリ新ナル財政委員會ハ五ヶ國以外ノ諸國ヨリモ代表者ヲ出スヘク其ノ代表者ノ選舉未済ナレハ其ノ組織完成セサルコトヲ指摘シ

ハ、米國委員モ亦同様ノ意見ヲ述ヘタリ

ニ、議長(佛藏相)然ラハ新ナル財政委員會ノ組織完成スル迄延期スルノ外無キヲ述ヘ

ホ、英國委員ハ五大國會議ノ訓令ニハ新委員會ハ本月八日迄ニ報告ノ義務アリテ時日(脱)レハ新委員會ノ初會ハ復延期トナルノ外無カルヘキヲ注意シ

ヘ、米國委員ハ更ニ進シテ今日徒ラニ延期スルヨリモ國際聯盟財政部創立案ヲ此處ニ調査シ本會ノ意見ヲ定メ置クコト新委員會ノ事務進行ニ助トナルヘキヲ述ヘタリ

ト、議長ハ本委員會ニ於テ之ヲ調査スルモ意見ノ一致ヲ望ミ難シ國際聯盟創設問題ニ對スル英國委員ノ報告ノ如キハ佛國ノ主張セル目的ヲ達スル能ハサルヲ以テ佛國委員ハ全然反對ナリト明言シ

チ、之ヨリ議論ハ本委員會ニ於テハ調査ノ權限アリヤ否ヤノ點トナリ米國委員ハ權限無ケレハ又何ヲカ云ハムトノ態度ヲ示シ英國委員ハ本會ニ於テ意見ヲ定ムル能ハサルハ新ナル委員會ニ於テモ同様ナルヘシト論シタルモ議長ハ遂ニ動カス

リ、結局新委員會ノ完成ヲ待ツヘシト決シテ解散セリ

備考

以上ノ議論ヨリ森委員ノ察スル處ニ依レハ佛國委員ハ國際聯盟財政部ノ權限ニ關シ英米ノ意見ニ満足スル能ハス五ヶ國以外ノ小國ヲ加ヘタル新ナル委員會ニ於テ其ノ主張ヲ貫徹セムトノ希望ヲ有スル結果今日ノ會議ニ於テ如此態度ヲ

執リタルモノナラムト云フ

○新財政委員會第一次會

(本委員會ニ付テハ講和打合會三月一日(乙)、丁)三月五日(丁)、最高軍事會議三月八日(乙)及舊財政委員會三月五日ノ記事參照)

一、日 時 三月十五日

一、列席委員

日本………珍田全權委員森委員

英米佛伊………各二名

白希羅波塞「チユック、スローヴァック」………各一名

一、内 容

甲、議長副議長推舉

佛國藏相假議長席ニ着キ議長ニ英國「モンターギュー」(Montague)氏、副議長ニ珍田委員及伊國「クレスビー」氏ヲ舉

乙、委員會内部ノ組織

書記局ノ構成分科會ノ組織専門家ノ參與等委員會内部ノ組織ニ關シ大體損害補償委員會ノ夫レニ倣ヒテ規則ヲ定ム

丙、分科會ノ組織(英國案採用)

第一分科………豫備講和條約ニ必要ナル諸問題

第二分科………貨幣問題

第三分科……經濟委員會トノ聯合委員會トシ戰前債務ノ決濟問題

第四分科……聯合國間財政問題

舊財政委員會第八次會合ニ於テ確認シタル報告中ノ諸問題ノ右四分科ニ對スル配分ニ就テハ未タ明定スル所ナキモ第一分科會ハ問題ノ種類ヲ問ハス豫備講和條約ニ關スル緊急決定ノ必要アリト認ムル問題ヲ選定審議スルコトナレリ
從テ他ノ分科會ヨリモ(脱)至ルヘシ尙國際聯盟財政部ノ問題ハ第四分科ノ擔任タルヘシ

丁、舊埃洪國軍事公債利札支拂不能ノ件

本件ニ關シ最高軍事會議ノ諮問アリタルヲ以テ關係諸國委員ヲ以テ特別分科會ヲ組織シ直ニ開會セシム

經濟委員會

○新經濟委員會第一次會合

(註) 經濟問題委員會ハ既掲三回ノ會合ニテ起草委員會(Drafting Committee)トシテ任務終リ改メテ五大國ヨリ二名宛ノ委員ヲ擧ケ從來ノ經濟委員ニテ決定シタル事項(二月十一日ノ經濟委員會記事參照)ノ中曩ニ最高經濟委員會(Council suprême économique)ニ移サレタル過渡期救濟案ニ關スル事項(即第一條ナリ、二月二十一日ノ講和打合會參照)ヲ除ク各項ニ付協議ヲ進捗セシムルコトトナリタルモノナリ

一、日 時 三月七日

一、出席者 二月八日ノ經濟委員會出席者ノ外

英、「サー、シヨージ、フォスター」(Sir George Foster)

佛、「シヤン、モレル」(Jean Morel)

米、「トマス、イアモン」(Thomas Lamont)

伊、「シニオール、クイセリー」(Signor Cisselli)

日、松井全權

一、内容 各種分科會設置問題

平和條約中ニ挿入スヘキ諸問題ヲ可成速ニ講究スルタメ各種分科會設置諸問題ヲ討議シタルモ全部確定スルニ至ラズシテ散會ス

○新經濟委員會第二次會合

一、日 時 三月十日

一、内 容 各種分科設置(承前)

○平和條約中ニ挿入スヘキ諸問題ヲ講究スル爲左ノ分科會ヲ設置スルニ決ス

(一) 關稅規則及ヒ「ダンピング」

(二) 港灣及ヒ海上運送

(三) 不正競争

(四) 戰前對敵契約

(五) 交戰國間相互財産ノ徵收清算管理賣却

(六) 商標及ヒ特許權

(七) 敵人

(八) 通商條約ノ破棄復舊

○前記分科會ノ委員ハ大國ヨリ各五名小國ヨリ各三名トス

本邦側ヨリハ(一)福井(二)黒川信次郎(三)南條金雄(四)喜多(五)福井(六)南條(七)大久保利武(八)岡實ヲ夫々出席セシムル等

(三)及(六)ノ南條ハ後喜多ニ改メラル

國際勞働法委員會

○國際勞働法委員會其後ノ經過

(自三月十一日至三月十五日)

國際勞働法委員會ハ三月一日ヨリ十日迄休會シ三月十一日ヨリ英國案ノ第三讀會ニ入り各國委員ヨリ更ニ多少ノ修正意見及ヒ新提議有リ議事經過ノ重要ナルモノ左ノ通

(一) 英國案第十九條ニ關スル日本委員ノ留保

日本委員ハ政府ノ電訓ニ基キ第十九條末項ニ付キ更ニ發議ノ餘地ヲ留保シ且ツ第十回ノ會議ニ於テ爲シタルト同趣旨ノ日本特殊ノ地位ニ依リ必要トスル事情ヲ更ニ主張シ置キタリ

(二) 第十九條ニ關スル英國委員修正案

第十九條ニ關シテハ米國委員ヨリモ不贊成ヲ唱ヘ然モ強硬ニシテ十七日更ニ新ナル修正案ヲ提議スル旨豫告シタルカ十三日ノ會議ニ於テ同條ニ關シ英國委員ノ提出シタル修正案ハ左ノ通りナルカ本件ハ十七日ニ何分ノ決定ヲ爲ス筈ナリ

第一項 講和調書其二附錄英文參照(註)「コンシダーレーション」ノ前ニ「ファイナル」ヲ加ヘ、第二項「コンヴェンション」ノ前「ドラフト」ヲ置ケリ(ニヶ所)、同項ノ次ニ左ノ文句ヲ加フ

The Secretary-General will communicate certified copy of the draft convention to all the High Contracting Parties.

第三項ヲ左ノ通り改ム

Each of the High Contracting Parties undertakes that it will within period of one year at most from the end of meeting of conference bring draft convention before the national authority or authorities within whose competence the matter lies, and provided draft convention obtain consent of such national authority or authorities, will communicate formal ratification of convention to the Secretary-General and will take(?) all administrative steps necessary to put convention into operation forthwith. If the draft convention fail to obtain consent of such national authority or authorities, no further obligation shall rest on the High Contracting Party.

(三) 第一回労働大會ノ件

イ、日時、場所、主催國、

來ル十月ニ開催スヘキ第一回労働大會ノ場所ハ華盛頓主催國ハ米國トスルコトト決議セルカ米國委員ノ説明ニテ尙

ホ確定ヲ留保セラレタリ

ロ、其議題ハ

一、一日八時間及ヒ一週四十八時間労働ノ原則ノ適用

二、失業期間中労働者ハ扶助ヲ受クルノ權利ヲ有スルノ原則ノ適用若クハ失業ノ豫防及救済問題ノ研究

三、婦人ノ産前及産後ノ労働及夜業並不健康工業ニ於ケル労働

四、少年労働ニ関スル件

五、婦人労働者ノ工業上ニ於ル夜間傭使ノ禁止並黃磷燐寸製造ノ禁止ニ関スル千九百六年「ベルン」條約ノ更新及適用ニ關スル件

ハ、準備委員會設置

尙右總會ノ事務取扱ノ爲メ日英米佛白及瑞塞ヲ加ヘタル七ヶ國委員(尙必要ニ應シ該委員ノ決議ニ依リ他國委員ヲ

モ加フ)ヨリ成ル委員會ヲ設クルコトヲ決定シ尙該委員會開催ノ場所ハ原案倫敦トアリシニ對シ白國委員ヨリ「ラッセル」ヲ提議シ追テ決スルコトトナリタリ

(四) 労働ニ關スル各國具體案綜合

労働ニ關スル具體的事項ニ關シ豫テ本委員會ニ各國委員ヨリ提出アリタル諸案ヲ一括シテ一案ト爲ス爲メ小委員會ヲ組織シ同委員會ハ十五日ノ會議ニ於テ左記ノ如キ綜合案ヲ作製報吾セリ

(五) 海上労働ニ關スル佛國委員ノ提議

此外佛國委員ヨリ陸上ノ労働ニ關スル國際法制ニ規定セル組織並ニ手續ニ倣ヒ別ニ海上労働ニ關スル定時國際總會支配部及理事ヲ設クルコト及本委員會ニ於テ追テ海上労働ニ關スル特別國際機關ノ事ニ付審議決定セシムルコトヲ提議シタリ

○講和條約中ニ挿入セラレムコトヲ希望スル條項ニ關スル提案

締約國ハ次ノ諸原則ノ採用ヲ宣言シ且本條約ノ下ニ設置セラルヘキ國際労働會議カ該原則ノ實際上ノ適用ニ關シテ爲スヘキ建言ニ從ヒテ該原則ノ實現ヲ保證スルニ必要ナル一切ノ手段ヲ採ルヘキコトヲ約定ス

第一條 工業又ハ商業労働時間ヲ一日八時間又ハ一週四十八時間ノ標準ノ下ニ制限スルノ原則、但シ風土ノ狀況工業組織ノ發達ノ不充分又ハ特殊ノ狀況ニ基キ労働者ノ工業の能率カ他國労働者ノ能率ニ比シ實質上異レル國ニ付テハ之ヲ除外スルコトヲ得ヘク斯ノ如キ國ニ關シテハ國際労働會議カ一日八時間又ハ一週四十八時間ナル標準ト略均等ノモノトシテ勸奨スル一定ノ標準ヲ採用スヘシ

第二條 必要の最低度ノ教育ヲ保證スル爲ニ十四歳以下ノ小兒ノ雇傭ヲ禁止スルノ原則、十四歳乃至十八歳ノ少年男女ハ技術上又ハ一般的教育ノ繼續セラルヘキコトヲ條件トシテノミ之ヲ雇傭シ得ルモノトスルノ原則

第三條 雇主並労働者ハ國家ノ利益保護ノ爲ニ必要ナル制限ニ從フノ外一切ノ目的ノ爲ニ集會結社ノ權利ヲ享有スヘキノ原則

第四條 各労働者ハ時ト處ノ狀況ニ鑑ミテ相當ナル標準生活ヲ維持スルニ充分ナル賃銀ヲ得ヘキノ權利ヲ有スルノ原則

又ハ一切ノ労働人民ニ對シテハ一定ノ時期ニ於テ達成セラレタル文明ノ程度ニ相應シタル標準生活ヲ基礎トセル相當賃銀ヲ支拂フヘキノ原則

第五條 週一日休暇ノ原則即チ能フ限り一切ノ労働者ニ對シテ同様ニ毎日曜休暇ノ定則

第六條 労働人民ノ權利ニ關スル一切ノ事項ニ付キ外國労働者並其ノ家族ノ労働狀態及保險ノ取扱ハ居住國民ト同一地步ニ於テ待遇セララルヘキモノニシテ該労働者並家族ハ外國人トシテ何等特別ノ税金ヲ課セラルヘキモノニアラサルノ原則

第七條 同等ノ労働ニ對シテハ男女共ニ(？)同等ノ賃銀ヲ仕拂ハルヘキノ原則

第八條 農業労働者ノ一週最高労働時間ヲ各締約國ノ立法ニヨリテ定ムヘキノ原則

第九條 各國ハ労働者代表者ヲ參與セシメタル工業商業及農業労働狀態監督制度ヲ設立スヘキノ原則

第十條 移住ノ自由ハ直接關係國ノ政府並労働組合ノ同意ニ從フノ原則

第十一條 労働者ノ健康及安全ヲ保證スルニ最モ有利ナル基礎ノ下ニ出來得ル丈標準ヲ一定セシムルノ目的ヲ以テ健康及安全ニ關スル諸國ノ條規並社會的保險ニ關スル條規ヲ比較スヘキノ原則

第十二條 失業ノ防止並他働の失業期間失業労働者ニ對スル食料ヲ確保スル爲可能の一切ノ措置ヲ採ルハ各國政府ノ責任タルノ原則

第十三條 權利上及事實上人類ノ労働ハ商品即チ取引上ノ物品トシテ遇セララルヘキニアラサルノ原則

第十四條 他働の使役ノ狀態ハ被告ノ有罪ト決セラレタル犯罪ノ所罰ノ場合ヲ除ク外存スヘカラサルノ原則

第十五條 商船ノ(脱)ハ其ノ港灣碇泊中退船スルノ權利ヲ有スルノ原則

第十六條 物品又ハ商品ハ牢獄労働者カ其ノ製造ニ携ハレル場合ニハ運送又ハ授受スヘカラサルノ原則

第十七條 家内労働ニヨリテ生産セル一切ノ商品ノ販賣又ハ商業上ノ目的ノ爲メニスル使用禁止ノ原則

第十八條 各國ハ其ノ往任労働者ヲ如何ナル方法ニテモ援助シ保護スル爲メニ特別官吏ヲ派遣スルノ權利ヲ有シ並來住國ハ斯ル官吏ノ入國ヲ許容シ且其ノ職務ノ遂行ニ助力スル事ヲ要スルノ原則

第十九條 労働ノ援助及保護ノ目的ヲ以テ當該政府ニヨリテ承認セラレタル任意的機關ノ間ニ行爲ノ(不明)ヲ確立スヘキノ原則